

基礎分野

科目名	心理学	開講時期	単位数	時間数
		1年次前期	1	15
担当教員	非常勤講師			
科目目標	1. 人間の認知、行動、心の発達と心理学的な立場から広く理解し、人間理解を深める。			
DPとの関連性	1. 豊かな感性を身につけ、人の可能性を信じ、自己も他者も大切にできる。 2. 自己を客観的に見つめ内省することができる。 3. 医療従事者としての倫理観に基づき、生命と個人の尊厳を擁護できる。 4. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている。 8. 看護に対する探究心を持ち、自ら学ぶ姿勢を持ち続けることができる。			
回数	学習内容		授業方法	
1	心理学導入 心理学とは 発達と心理		講義	
2	発達の心理		講義	
3	性格・知能の心理 社会・集団の心理		講義	
4	感覚・知覚の心理 記憶・学習の心理		講義	
5	感情・動機の心理 健康の心理と人間理解		講義	
6	臨床心理学の基礎		講義	
7	応用行動分析による人間理解		講義	
8	筆記試験(45分)			
評価方法	筆記試験 100点			
教科書	ベーシック心理学 医歯薬出版			
実務経験	本科目は公認心理士として実務経験のある教員による授業である			

基礎分野

科目名	カウンセリング論	開講時期	単位数	時間数
		2年次前期	1	15
担当教員	非常勤講師			
科目目標	1. カウンセリングの基本姿勢と基本技法を理解する。 2. カウンセリングにおける「聴く」ことの意義を理解する。 3. 看護場面において心の援助を行うための基本的な知識と考え方、方法を理解できる。			
DPとの関連性	1. 豊かな感性を身につけ、人の可能性を信じ、自己も他者も大切にできる。 2. 自己を客観的に見つめ内省することができる。 4. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている。 5. その人らしい生活を支えるために、対象の持てる力を活かした援助を考える力が身についている。 8. 看護に対する探究心をもち、自ら学ぶ姿勢を持ち続けることができる。			
回数	学習内容	授業方法		
1	カウンセリングとは コミュニケーションスキル・ラポール形成	講義		
2	カウンセリングの基本姿勢・ヘルピングスキル	講義		
3	自分自身を知ることとは～アセスメントの諸技法	講義		
4	認知行動療法(1)～行動に焦点をあてたアプローチ	講義		
5	認知行動療法(2)～認知に焦点をあてたアプローチ	講義		
6	傾聴の演習	講義・演習		
7	職場のメンタルヘルス、ストレスコーピング	講義		
8	筆記試験(45分)			
評価方法	筆記試験 100点			
教科書				
実務経験	本科目は臨床心理士として実務経験のある教員による授業である			

専門基礎分野

科目名	解剖生理学Ⅱ 呼吸器・循環器	開講時期	単位数	時間数
		1年次前期	1	30
担当教員	非常勤講師			
科目目標	1. 呼吸としての各器官の構造を理解する 2. 身体と外界との間でガス交換が行われるメカニズムを理解する 3. 循環器としての血液系、リンパ系及び、各器官の構造を理解する 4. 循環系のメカニズムを理解する 5. 血圧・心拍・脈拍などの日常において身近な生理学的指標の意義を理解する 6. 体液の調整を司る腎臓の構造と働きを理解する			
DPとの関連性	4. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている。 8. 看護に対する探究心をもち、自ら学ぶ姿勢を持ち続けることができる。			
回数	学習内容	授業方法		
1	呼吸器の構造	講義		
2	呼吸機能(内呼吸と外呼吸・呼吸のメカニズム・呼吸気量)	講義		
3	ガス交換とガスの運搬、肺の循環と血流	講義		
4	酸塩基平衡	講義		
5	呼吸調節	講義		
6	血液ガスの見方、呼吸器のまとめ	講義		
7	心臓の構造	講義		
8	心電図と心収縮	講義		
9	血管	講義		
10	血圧	講義・演習		
11	循環と病態、リンパ系	講義		
12	腎臓の構造	講義		
13	尿の生成と排尿器	講義		
14	体液の調節	講義		
15	筆記試験 2回			
評価方法	筆記試験 呼吸器 50%循環器 50%を総合して評価する			
教科書	解剖生理学 医学書院			
実務経験	本科目は医師として実務経験のある教員による授業である			

専門基礎分野

科目名	解剖生理学Ⅲ 消化器	開講時期	単位数	時間数
		1年次前期	1	15
担当教員	非常勤講師			
科目目標	1. 消化器系としての各器官及び付属する腺の構造と働きを理解する 2. 生活現象としての食物摂取、消化、吸収、排泄のメカニズムを理解する			
DPとの関連性	4. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている。 8. 看護に対する探究心をもち、自ら学ぶ姿勢を持ち続けることができる。			
回数	学習内容	授業方法		
1	咽頭から食道の構造と機能	講義		
2	食道から胃の構造と機能	講義		
3	胃から十二指腸の構造と機能	講義		
4	小腸の構造と機能	講義		
5	膵臓・胆嚢・肝臓の構造と機能	講義		
6	大腸・腹膜・肝臓・膵臓の構造と機能	講義		
7	消化器のまとめ	講義・小テスト		
8	筆記試験(45分)			
評価方法	筆記試験 100点			
教科書	解剖生理学 医学書院			
実務経験	本科目は医師として実務経験のある教員による授業である			

専門基礎分野

科目名	解剖生理学Ⅳ 筋骨格系・脳神経系	開講時期	単位数	時間数
		1年次前期	1	30
担当教員	非常勤講師			
科目目標	1. 骨格及び、筋の構造と働きを学び、身体各支持運動を司るメカニズムを理解する 2. 情報や刺激の受容器としての感覚器の構造と働きを理解する 3. 情報処理及び伝達器官としての神経系構造と働きを理解する			
DPとの関連性	4. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている。 8. 看護に対する探究心をもち、自ら学ぶ姿勢を持ち続けることができる。			
回数	学習内容	授業方法		
1	筋骨格系の構造と働き(骨、関節、筋)	講義		
2	筋骨格系の構造と働き(体幹)	講義		
3	筋骨格系の構造と働き(上肢)	講義		
4	筋骨格系の構造と働き(下肢)	講義		
5	筋骨格系の構造と働き(頭蓋骨)	講義		
6	神経系の構造と働き(脳幹の機能)	講義		
7	神経系の構造と働き(血液脳関門)	講義		
8	神経系の構造と働き(脊髄神経・脳神経・副神経)	講義		
9	神経系の構造と働き(舌下神経・中枢神経系の障害)	講義		
10	神経系の構造と働き(植物状態と脳死、ブドウ膜)	講義		
11	神経系の構造と働き(網膜、骨迷路、膜迷路)	講義		
12	痛み・神経伝達とその仕組み	講義		
13	中枢神経系・自律神経系	講義		
14	脳・脊髄の保護構造と循環系、認知機能	講義		
15	筆記試験 2回			
評価方法	筆記試験 筋骨格系 50%脳神経系 50%を総合して評価する			
教科書	解剖生理学 医学書院			
実務経験	本科目は医師として実務経験のある教員による授業である			

専門基礎分野

科目名	疾病と治療 I 呼吸器・循環器・腎・泌尿器	開講時期	単位数	時間数
		1 年次前期	2	45
担当教員	非常勤講師			
科目目標	1. 呼吸器疾患の病態生理・検査・治療について理解する。 2. 循環器疾患の病態生理・検査・治療について理解する。 3. 腎疾患の病態生理・検査・治療について理解する。 4. 泌尿器・男性生殖器における疾患の病態生理・検査・治療について理解する。			
DP との関連性	4. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている。 6. 医療チームの一員として多職種との連携・協働ができる。 8. 看護に対する探究心をもち、自ら学ぶ姿勢を持ち続けることができる。			
回数	学習内容	授業方法		
1	1. 呼吸器疾患の主な症状と病態生理	講義		
2	検査と治療・処置(検査)	講義		
3	検査と治療・処置(治療・処置)	講義		
4	疾患の理解(感染症・間質性肺疾患)特殊な感染症MRSAを含む	講義		
5	疾患の理解(気道疾患・肺循環疾患)	講義		
6	疾患の理解(呼吸不全・呼吸調節に関する疾患)	講義		
7	疾患の理解(肺腫瘍・肺・縦隔・横隔膜の疾患・胸部外傷)	講義		
8	2. 循環器疾患の主な症状と病態生理	講義		
9	検査と治療	講義		
10	検査と治療	講義		
11	疾患の理解(虚血性心疾患)	講義		
12	疾患の理解(心不全、血圧異常)	講義・演習		
13	疾患の理解(不整脈)	講義		
14	疾患の理解(弁膜症)	講義		
15	疾患の理解(動脈系疾患・静脈系疾患・リンパ系疾患)	講義		
16	3. 腎臓の症状とその病態生理	講義		
17	疾患の理解 腎不全(透析療法)、慢性腎臓病	講義		
18	疾患の理解(ネフローゼ症候群、糸球体腎炎、糖尿病性腎症)	講義		
19	4. 泌尿器の構造と機能・疾患の病態生理・検査と治療・処置	講義		
20	疾患の理解(尿路・生殖器の感染症)	講義		
21	疾患の理解(尿路の通過障害と機能障害))	講義		
22	疾患の理解(尿路結石・腫瘍・男性性機能障害)	講義		
23	筆記試験			
評価方法	筆記試験 呼吸器 30%循環器・腎 40%泌尿器 30%を総合して評価する			
教科書	呼吸器、循環器 医学書院 腎・泌尿器 医学書院			
実務経験	本科目は医師として実務経験のある教員による授業である			

専門基礎分野

科目名	疾病と治療Ⅱ 消化器・アレルギー膠原病 内分泌代謝・血液造血器	開講時期	単位数	時間数
		1 年次前期	2	45
担当教員	非常勤講師			
科目目標	1. 消化器疾患の病態生理・検査・治療について理解する。 2. アレルギー疾患の病態生理・治療について理解する。 3. 膠原病の病態生理・検査治療について理解する。 4. 内分泌、代謝疾患の病態生理・検査・治療について理解する。 5. 血液・造血器疾患の病態生理・検査・治療について理解する。			
DP との 関連性	4. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている。 6. 医療チームの一員として多職種との連携・協働ができる。 8. 看護に対する探究心をもち、自ら学ぶ姿勢を持ち続けることができる。			
回数	学習内容	授業方法		
1	1. 消化器疾患の症状と病態生理	講義		
2	主な検査 内視鏡検査 と治療	講義		
3	主な疾患の理解 1) 食道疾患 2) 胃・十二指腸疾患	講義		
4	3) 腸及び腹膜疾患	講義		
5	4) 肝臓・胆嚢疾患	講義		
6	5) 膵臓疾患	講義		
7	2. アレルギー反応と機序	講義		
8	診断と治療	講義		
9	自己免疫疾患の検査と治療 1) 免疫学的検査 2) 薬物療法	講義		
10	疾患の理解 SLE・全身硬化症・関節リウマチ・クローン病・潰瘍性大腸炎	講義		
11	3. 内分泌・代謝器官の構造と機能	講義		
12	内分泌代謝疾患の症状と病態生理	講義		
13	検査	講義		
14	主な疾患の理解(内分泌疾患)	講義		
15	主な疾患の理解(内分泌疾患)	講義		
16	主な疾患の理解(代謝疾患)	講義		
17	主な疾患の理解(代謝疾患)	講義		
18	4. 血液・造血器疾患の整理と造血のしくみ	講義		
19	血液・造血器疾患の検査・診断と症候・病態生理・	講義		
20	検査・治療の理解(赤血球系の異常)	講義		
21	検査・治療の理解(白血球系の異常・出血性疾患)	講義		
22	検査・治療の理解(造血器腫瘍)	講義		
23	筆記試験			
評価方法	筆記試験 消化器アレルギー40%、内分泌代謝 30%血液造血器 30%を総合して評価する			
教科書	血液・造血器、消化器、内分泌・代謝、アレルギー・膠原病・感染症 医学書院			
実務経験	本科目は医師として実務経験のある教員による授業である			

専門基礎分野

科目名	疾病と治療Ⅲ 運動器・脳神経	開講時期	単位数	時間数
		1 年次前期	1	30
担当教員	非常勤講師			
科目目標	1. 運動器疾患の病態生理・検査・治療について理解する 2. 脳神経疾患の病態生理・検査・治療について理解する。			
DP との 関連性	4. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている。 6. 医療チームの一員として多職種との連携・協働ができる。 8. 看護に対する探究心をもち、自ら学ぶ姿勢を持ち続けることができる。			
回数	学習内容	授業方法		
1	1. 運動器疾患の症状と病態生理	講義		
2	主な診断・検査・治療	講義		
3	主な疾患の理解 外因性の運動器疾患(骨折・脱臼・捻挫)	講義		
4	主な疾患の理解 外因性の運動器疾患 (神経の損傷)(筋・腱・靭帯の断裂)	講義		
5	主な疾患の理解 内因性の運動器疾患 (先天性疾患・骨・関節の炎症性疾患)	講義		
6	主な疾患の理解 内因性の運動器疾患 (代謝性骨疾患・脊椎の疾患)	講義		
7	2. 脳神経疾患の主な症状と病態生理	講義		
8	主な検査と治療(外科・内科的治療法)	講義		
9	主な検査と治療(外科・内科的治療法)			
10	主な疾患の理解 1)脳疾患	講義		
11	2)脊髄疾患	講義		
12	3)末梢神経疾患	講義		
13	4)神経・筋疾患	講義		
14	5)脳・神経系の感染症	講義		
15	6)中毒・てんかん・認知症・内科疾患に伴う神経疾患	講義		
評価方法	筆記試験 運動器 50%脳神経 50%を総合して評価する			
教科書	脳・神経 医学書院 運動器 医学書院			
実務経験	本科目は医師として実務経験のある教員による授業である			



専門基礎分野

科目名	疾病と治療Ⅳ 皮膚・耳鼻咽喉・眼	開講時期	単位数	時間数
		3 年次後期	1	30
担当教員	非常勤講師			
科目目標	1. 皮膚疾患の病態生理・検査・治療について理解する。 2. 耳鼻咽喉疾患の病態生理・検査・治療について理解する。 3. 眼疾患の病態生理・検査・治療について理解する。			
DP との 関連性	4. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている。 6. 医療チームの一員として多職種との連携・協働ができる。 8. 看護に対する探究心をもち、自ら学ぶ姿勢を持ち続けることができる。			
回数	学習内容	授業方法		
1	皮膚疾患の構造と機能、主な症状と病態生理	講義		
2	検査と治療・処置 (皮膚科的検査法・病理組織検査法・全身療法・外用療法を含む)	講義		
3	疾患の理解(表在性皮膚疾患)	講義		
4	疾患の理解(真皮・皮下脂肪および皮膚付属器の疾患)	講義		
5	疾患の理解(物質・化学的皮膚障害)・膠原病に伴う皮膚病変	講義		
6	耳鼻咽喉疾患の構造と機能、主な症状と病態生理 耳痛・耳漏・鼻閉・鼻漏	講義		
7	検査と治療・処置 視力検査・内視鏡検査・味覚検査	講義		
8	疾患の理解 耳疾患(中耳炎・突難・メニエール)・鼻疾患(急性副鼻腔炎を含む)	講義		
9	疾患の理解(咽喉頭疾患)	講義		
10	疾患の理解(気道・気道疾患)	講義		
11	眼疾患の構造と機能、主な症状と病態生理	講義		
12	検査と治療・処置(眼底検査・光凝固)	講義		
13	疾患の理解(網膜剥離)	講義		
14	疾患の理解(白内障)	講義		
15	疾患の理解	講義		
評価方法	筆記試験 皮膚 30%眼 30%耳鼻咽喉 40%を総合して評価する			
教科書	皮膚 医学書院 耳鼻咽喉 医学書院 眼 医学書院			
実務経験	本科目は医師として実務経験のある教員による授業である			

専門基礎分野

科目名	薬理学	開講時期	単位数	時間数
		1 年次後期	1	15
担当教員	非常勤講師			
科目目標	1. 薬理作用の機序を理解する 2. 薬剤管理の基本を理解する 3. 各製剤の人体への作用・副作用及び投与方法を理解する			
DP との 関連性	4. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている。 8. 看護に対する探究心をもち、自ら学ぶ姿勢を持ち続けることができる。			
回数	学習内容			授業方法
1	薬理学の基礎知識・薬理作用と人体への影響			講義
2	薬物管理・麻薬管理・消毒薬			講義
3	各製剤の人体への作用・副作用及び投与方法(抗がん剤・免疫治療薬)			講義
4	各製剤の人体への作用・副作用及び投与方法(抗感染症薬・抗アレルギー薬)			講義
5	各製剤の人体への作用・副作用及び投与方法(循環器系)			講義
6	各製剤の人体への作用・副作用及び投与方法(末梢・中枢神経系)			講義
7	各製剤の人体への作用・副作用及び投与方法(呼吸・消化器・生殖器系)			講義
8	筆記試験(45分)			
評価方法	筆記試験 100点			
教科書	薬理学 医学書院			
実務経験	本科目は薬剤師として実務経験のある教員が授業を行う			

専門基礎分野

科目名	臨床薬理学	開講時期	単位数	時間数
		2年次前期	1	15
担当教員	非常勤講師			
科目目標	1. 臨床現場で行われている薬物治療と、そこで扱う医薬品を理解する 2. 薬物療法における服薬指導技術を理解する			
DPとの関連性	4. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている。 6. 医療チームの一員として多職種との連携・協働ができる。 8. 看護に対する探究心をもち、自ら学ぶ姿勢を持ち続けることができる。			
回数	学習内容			授業方法
1	薬物治療の実際			講義
2	主要疾患の臨床薬理学	高齢者の心不全の患者の薬物療法		講義・事例検討
3	主要疾患の臨床薬理学	ハイリスク患者と薬物療法(腎不全・肝不全)		講義・事例検討
4	主要疾患の臨床薬理学	糖尿病患者の薬物療法		講義・事例検討
5	主要疾患の臨床薬理学	糖尿病の薬物療法(服薬指導)		講義・事例検討
6	主要疾患の臨床薬理学	関節リウマチ		講義
7	主要疾患の臨床薬理学	統合失調症・気分障害		講義
8	筆記試験(45分)			
評価方法	筆記試験 100点			
教科書	臨床薬理学 医学書院			
実務経験	本科目は薬剤師として実務経験のある教員が授業を行う			

専門基礎分野

科目名	臨床療法 I	開講時期	単位数	時間数
		1年次後期	1	15
担当教員	非常勤講師			
科目目標	1. 手術侵襲と生体の反応と必要な管理を理解する 2. 麻酔及びその管理について理解する 3. 救急救命処置の実際を理解する 4. 集中治療における医療機器の取り扱いについて理解する			
DP との関連性	4. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている。 6. 医療チームの一員として多職種との連携・協働ができる。 8. 看護に対する探究心をもち、自ら学ぶ姿勢を持ち続けることができる。			
回数	学習内容		授業方法	
1	外科医療の基礎		講義	
2	外科治療を支える分野(麻酔法・体液管理)		講義	
3	外科治療を支える分野(呼吸管理・栄養管理)		講義	
4	集中治療をうける患者の看護・救急救命処置技術(外傷への応急処置、中毒への応急処置)		講義	
5	救急救命処置技術 一次救急処置(BLS)・止血法		講義・演習	
6	医療機器取り扱いにおける臨床工学技士の役割と看護師の役割 集中治療における医療機器の取り扱い(シリンジポンプ・輸液ポンプ)		講義・演習	
7	集中治療における医療機器の取り扱い(人工呼吸器)		講義・演習	
8	筆記試験(45分)			
評価方法	筆記試験 100点			
教科書	臨床外科総論 医学書院 基礎看護技術Ⅱ 医学書院			
実務経験	本科目は医師・臨床工学技士として実務経験のある教員が授業を行う			

専門基礎分野

科目名	臨床療法Ⅱ	開講時期	単位数	時間数
		2年次前期	1	30
担当教員	非常勤講師			
科目目標	1. リハビリテーションの概念を学び、リハビリテーションにおける看護の役割を考える。 2. 放射線の基礎について理解を深める。 3. 臨床検査の基礎について理解を深める。 4. 外科的療法の適応、および起こりやすい合併症を理解する。			
DPとの関連性	4. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている。 6. 医療チームの一員として多職種との連携・協働ができる。 8. 看護に対する探究心をもち、自ら学ぶ姿勢を維持することができる。			
回数	学習内容	授業方法		
1	リハビリテーション概念について	講義		
2	リハビリテーションの種類	講義		
3	自動運動・他動運動・体位ドレナージの実際	演習		
4	リハビリテーションの種類(言語療法)と嚥下訓練	演習		
5	装具・義肢・歩行補助具	演習		
6	放射線とは、放射線技師の役割	講義		
7	放射線科での主な検査の目的・種類・留意点・医療事故	講義		
8	臨床検査とは、臨床検査技師の役割とは	講義		
9	臨床検査 検査の目的・採取方法・取り扱い	講義		
10	外科的療法 腫瘍手術と合併症 食道がん	講義		
11	外科的療法 腫瘍手術と合併症 胃がん	講義		
12	外科的療法 腫瘍手術と合併症 大腸がん	講義		
13	外科的療法 腫瘍手術と合併症 胆肝系の腫瘍	講義		
14	外科的療法 腫瘍手術と合併症 膵臓がん	講義		
15	外科的療法 腫瘍手術と合併症 乳がん	講義		
評価方法	筆記試験 50%とレポート 50%を総合して判断する			
教科書	治療法概説 メジカルフレンド社 臨床検査 メジカルフレンド社 臨床外科各論 医学書院			
実務経験	本科目は医師、理学療法士、臨床検査、放射線技師として実務経験のある教員による授業である。			

専門基礎分野

科目名	栄養食事療法	開講時期	単位数	時間数
		2 年次前期	1	30
担当教員	非常勤講師			
科目目標	1. 健康な生活を営む上で、栄養・食事の意義と役割を理解する 2. ライフサイクルにおける栄養について理解する 3. 各疾患患者の栄養食事療法について、臨床で活用できる知識を習得する			
DP との関連性	4. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている。 6. 医療チームの一員として多職種との連携・協働ができる。 8. 看護に対する探究心をもち、自ら学ぶ姿勢を持ち続けることができる。			
回数	学習内容		授業方法	
1	栄養とは 三大栄養素・ビタミン		講義	
2	栄養とは 三大栄養素・ビタミン		講義	
3	栄養とは ミネラル 食事摂取基準		講義	
4	栄養素の消化・吸収・代謝		講義	
5	エネルギー代謝		講義	
6	ライフステージと栄養		講義	
7	ライフステージと栄養		講義	
8	食品の表示制度・病態栄養		講義	
9	循環器疾患の食事療法		講義	
10	消化器疾患の食事療法		講義・事例検討	
11	消化器疾患の食事療法 食事指導の実際		講義・事例検討	
12	腎・泌尿器疾患の食事療法		講義	
13	栄養代謝疾患の食事療法		講義・事例検討	
14	栄養代謝疾患の食事療法 食事指導の実際		講義・事例検討	
15	筆記試験 2 回			
評価方法	筆記試験 中間試験 50% 終講試験 50% を総合して判断する			
教科書	栄養学 医学書院 栄養食事療法 医学書院			
実務経験	本科目は管理栄養士として実務経験のある教員が授業を行う			

専門基礎分野

科目名	保健医療論	開講時期	単位数	時間数
		1年次前期	1	15
担当教員	非常勤講師			
科目目標	1. 人々の健康に関する医学・医療の目的や役割を理解する 2. 我が国の保健医療の現状と課題を理解する			
DPとの関連性	4. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている。 8. 看護に対する探究心をもち、自ら学ぶ姿勢を維持することができる。			
回数	学習内容	授業方法		
1	現代医療論導入	講義		
2	健康と疾病	講義		
3	健康と疾病	講義		
4	医学と医療	講義		
5	我が国の医療供給体制	講義		
6	現代医療における諸問題	講義		
7	死と生命保持	講義		
8	筆記試験(45分)			
評価方法	筆記試験 100点			
教科書	現代医療論 メジカルフレンド社			
実務経験	本科目は医師として実務経験のある教員が授業を行う			

専門基礎分野

科目名	社会福祉 I	開講時期	単位数	時間数
		1年次前期	1	15
担当教員	非常勤講師			
科目目標	1. 社会福祉の基本的な考え方を理解する。 2. 医療と社会福祉の関連性を理解する。			
DP との関連性	3. 医療従事者としての倫理観に基づき、生命と個人の尊厳を擁護できる。 4. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている。 5. その人らしい生活を支えるために、対象の持てる力を活かした援助を考える力が身についている。 6. 医療チームの一員として多職種との連携・協働ができる。 7. 変化する時代や地域社会のニーズに対応できるよう、多様な人々と連携・協働ができる。			
回数	学習内容		授業方法	
1	社会福祉の概念と医療ソーシャルワーカーの役割と連携		講義	
2	社会保障制度		講義	
3	社会福祉の法制度		講義	
4	現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向		講義	
5	社会保障のしくみ(医療保障制度)		講義	
6	社会保障のしくみ(介護保障制度)		講義	
7	社会保障のしくみ(所得保障)		講義	
8	筆記試験(45分)			
評価方法	筆記試験 100点			
教科書	社会福祉 医学書院			
実務経験	本科目は社会福祉士として実務経験のある教員による授業である			



専門基礎分野

科目名	社会福祉Ⅱ	開講時期	単位数	時間数
		2年次後期	1	15
担当教員	非常勤講師			
科目目標	1. 社会福祉の法律の構成を理解し、人々の生活と健康をどのように守っているのかを把握する。 2. それぞれの福祉サービスを理解し、実践に役立つ知識を身につける。			
DPとの関連性	3. 医療従事者としての倫理観に基づき、生命と個人の尊厳を擁護できる。 4. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている。 5. その人らしい生活を支えるために、対象の持てる力を活かした援助を考える力が身についている。 6. 医療チームの一員として多職種との連携・協働ができる。 7. 変化する時代や地域社会のニーズに対応できるよう、多様な人々と連携・協働ができる。			
回数	学習内容			授業方法
I	社会福祉の歴史			講義
2	難病の患者に対する医療等に関する法律			講義
3	社会福祉の分野とサービス(高齢者福祉)			講義
4	社会福祉の分野とサービス(障害者福祉)			講義
5	社会福祉の分野とサービス(児童家庭福祉)			講義
6	社会福祉実践と医療・看護			講義
7	社会福祉実践と医療・看護			講義
8	筆記試験(45分)			
評価方法	筆記試験 100点			
教科書	社会福祉 医学書院			
実務経験	本科目は社会福祉士として実務経験のある教員による授業である			

専門基礎分野

科目名	関係法規 I	開講時期	単位数	時間数
		2 年次前期	1	15
担当教員	非常勤講師			
科目目標	1. 医療関連法規を理解する			
DP との関連性	4. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている。 6. 医療チームの一員として多職種との連携・協働ができる。 7. 変化する時代や地域社会のニーズに対応できるよう、多様な人々と連携・協働ができる。			
回数	学習内容		授業方法	
1	法の概念		講義	
2	医事法(医療法)		講義	
3	医事法(医療関係資格法)		講義	
4	保健衛生法(地域保健法)		講義	
5	保健衛生法(健康増進法)		講義	
6	保健衛生法(分野別保健法)		講義	
7	保健衛生法 (感染症に関する法律) 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律 (食品の関する法) 薬務法 (薬事一般の関する法律)		講義	
8	筆記試験(45分)			
評価方法	筆記試験 100点			
教科書	看護関係法令 医学書院			
実務経験	本科目は医師として実務経験のある教員による授業である			

専門分野

科目名	看護学概論	開講時期	単位数	時間数
		1 年次前期	1	30
担当教員	専任教員			
科目目標	1. 看護の概念を理解できる。 2. 看護の概念と関連付けて看護の目的・目標・活動を理解できる。 3. 看護学における倫理の考え方や法的責任を理解することができる。 4. 看護学についての主要な考え方や、人々の健康にかかわる看護職の役割について理解・説明できる。			
DP との 関連性	1. 豊かな感性を身につけ、人の可能性を信じ、自己も他者も大切にできる。 3. 医療従事者としての倫理観に基づき、生命と個人の尊厳を擁護できる。 8. 看護に対する探究心をもち、自ら学ぶ姿勢を持ち続けることができる。			
回数	学習内容	授業方法		
1	看護学の全体像 看護とは	講義		
2	看護学的視点について 看護の本質	講義 グループワーク		
3	看護の歴史 フローレンスナイチンゲールと看護	講義 グループワーク		
4	専門職の定義 専門職としての看護	講義		
5	各職能団体の看護の定義 1. 日本看護協会 2. アメリカ看護師協会 3. 国際看護師協会の看護の定義 保健師助産師看護師法 法に基づく看護師の業務	講義		
6	看護の役割と機能	講義		
7	看護理論からみる看護の定義 ヘンダーソン オレム ロイ ペプロー トラベルビー	講義 グループワーク		
8	看護理論からみる看護の定義 ヘンダーソン オレム ロイ ペプロー トラベルビー	講義 グループワーク		
9	こころとからだにかかるストレスの影響	講義		
10	看護の対象 人間を理解する ライフサイクルと発達 看護の対象 マズローの欲求階層説 生活者としての人間	講義 グループワーク		
11	健康の捉え方 健康とは何か 健康モデルと看護における健康の概念 WHO ICF	講義		
12	人間の尊厳と権利 看護者の倫理綱領	講義		
13	看護における倫理と法	講義		
14	看護の活動領域 国際看護 災害看護	講義		
15	まとめ 筆記試験(45分)			
評価方法	筆記試験 100点			
教科書	看護学概論 医学書院 よくわかる看護者の倫理綱領 照林社			
実務経験	本科目は看護師として実務経験のある教員による授業である			

専門分野

科目名	看護基本技術 I フィジカルアセスメント	開講時期	単位数	時間数
		1 年次前期	1	15
担当教員	専任教員			
科目目標	1. 観察の意義と重要性を理解し、看護実践の基盤となる技術を習得できる。			
DP との関連性	4. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている。 6. 医療チームの一員として多職種との連携・協働ができる。 8. 看護に対する探究心を持ち、自ら学ぶ姿勢を維持することができる。			
回数	学習内容	授業方法		
1	ヘルスアセスメント・フィジカルアセスメントについて	講義		
2	フィジカルアセスメントに必要な基本技術 (視診・触診・聴診・打診) 身体計測	講義 演習		
3	看護活動における記録・報告	講義		
4	バイタルサインについて バイタルサインの測定方法①(体温・脈拍)	講義 演習		
5	バイタルサインの測定方法②(血圧・呼吸)	講義 演習		
6	バイタルサインの測定の実際	演習		
7	実技試験(血圧測定)	実技試験		
8	筆記試験(45分)			
評価方法	筆記試験 80% 実技試験 20%を総合して評価する			
教科書	基礎看護技術 I 医学書院			
実務経験	本科目は看護師として実務経験のある教員による授業である			

専門分野

科目名	看護基本技術Ⅱ 医療における基礎的コミュニケーション	開講時期	単位数	時間数
		1年次前期	1	15
担当教員	専任教員			
科目目標	1. 看護の対象となる人の尊厳に応える、看護実践能力の基盤である援助的人間関係形成のためのコミュニケーション能力を身につけることができる。			
DPとの関連性	1. 豊かな感性を身につけ、人の可能性を信じ、自己も他者も大切にできる。 2. 自己を客観的に見つめ内省することができる。 3. 医療従事者としての倫理観に基づき、生命と個人の尊厳を擁護できる。 4. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている。 5. その人らしい生活を支えるために、対象の持てる力を活かした援助を考える力が身についている。 8. 看護に対する探究心をもち、自ら学ぶ姿勢を持ち続けることができる。			
回数	学習内容	授業方法		
1	看護者と看護の対象にとってのコミュニケーションの意義	講義		
2	人間のコミュニケーションの特徴・構成要素 医療におけるコミュニケーションの特徴を理解する バーバルコミュニケーション・ノンバーバルコミュニケーション	講義		
3	傾聴・共感的理解とは 傾聴技法の理解と実践	講義・シミュレーション		
4	アサーティブネス・アサーション・アサーティブコミュニケーションの理解と実践	講義・シミュレーション		
5	プロセスレコードとは プロセスレコードの記載方法	講義		
6	コミュニケーション技術の実際	シミュレーション		
7	プロセスレコード立案・振り返り	グループワーク		
8	筆記試験(45分)			
評価方法	筆記試験 100点			
教科書	基礎看護技術Ⅰ 医学書院			
実務経験	本科目は看護師として実務経験のある教員による授業である			

専門分野

科目名	看護基本技術Ⅲ 問題解決過程 1	開講時期	単位数	時間数
		1 年次後期	1	15
担当教員	専任教員			
科目目標	1. 看護の対処となる人の尊厳に応える、基礎的看護実践能力を養うために、科学的思考の基盤となる問題解決の方法の基礎を理解する 2. 看護過程の基礎を理解できる 3. 看護診断の基礎を理解できる 4. 当校書式に書く内容が理解できる			
DP との関連性	2. 自己を客観的に見つめ内省することができる。 4. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている。 5. その人らしい生活を支えるために、対象の持てる力を活かした援助を考える力が身についている。 8. 看護に対する探究心をもち、自ら学ぶ姿勢を持ち続けることができる。			
回数	学習内容	授業方法		
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護過程の必要性と問題解決思考について</li> <li>・看護過程の 5 つの構成要素</li> <li>1) 情報収集と S 情報・O 情報とは</li> </ul>	講義		
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゴードンの 11 機能パターンとは</li> <li>・健康知覚・健康管理、認知・知覚パターン</li> </ul>	講義		
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護上の問題点とアセスメントの意味と書き方</li> </ul>	講義		
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関連図の書き方</li> <li>2) 看護診断とは</li> </ul>	講義		
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・優先順位と問題リストの書き方と考え方</li> </ul>	講義		
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>3) 看護計画立案</li> <li>・看護目標と書き方</li> <li>4) 実施</li> <li>5) 評価と SOPIE の書き方</li> </ul>	講義		
7	その他の受け持ち患者記録の書き方	講義		
8	筆記試験(45 分)			
評価方法	筆記試験 100 点			
教科書	基礎看護技術 I 医学書院 看護診断ハンドブック 医学書院 ゼロからわかる看護記録の書き方 成美堂出版			
実務経験	本科目は看護師として実務経験のある教員による授業である			

専門分野

科目名	看護基本技術Ⅳ 問題解決過程 2	開講時期	単位数	時間数
		2 年次前期	1	15
担当教員	専任教員			
科目目標	1. 看護における「行動」と「思考」を融合させる一方法として、看護過程を理解できる。			
DP との 関連性	3. 医療従事者としての倫理観に基づき、生命と個人の尊厳を擁護できる。 4. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている。 5. その人らしい生活を支えるために、対象の持てる力を活かした援助を考える力が身についている。 6. 医療チームの一員として多職種との連携・協働ができる。 8. 看護に対する探究心をもち、自ら学ぶ姿勢を持ち続けることができる。			
回数	学習内容	授業方法		
1	看護過程の概要 関連図作成	講義 グループワーク		
2	看護診断・共同問題の抽出 優先度を踏まえた問題リスト 援助の方向性・望ましい健康像	講義 グループワーク		
3	看護計画の立案 目標設定 具体策	個人ワーク グループワーク		
4	個人ワークの内容を元にグループで看護計画を立案	グループワーク		
5	立案した看護計画の発表・意見交換	グループワーク		
6	経過記録(SOAPI)の書き方 具体策の実施・日々の評価	講義 個人ワーク		
7	目標の評価方法	講義 個人ワーク		
8	まとめ			
評価方法	看護過程・レポート評価			
教科書	基礎看護技術Ⅰ 医学書院 看護診断ハンドブック 医学書院			
実務経験	本科目は看護師として実務経験のある教員による授業である			

専門分野

科目名	看護基本技術Ⅴ 安全確保の技術・感染予防技術	開講時期	単位数	時間数
		1 年次前期	1	30
担当教員	専任教員・非常勤講師(感染対策認定看護師)			
科目目標	1. 看護における安全確保の意義を理解する 2. 人間特性からヒューマンエラーを身近な問題として理解し、リスクセンス向上の必要性を理解する。 3. 看護業務において起こりやすいエラーと対策を理解する 4. 感染予防を学ぶ意義を理解できる 5. 感染予防策に関する基礎的知識を習得できる 6. 感染予防に必要な技術を基礎的知識をもとに実施できる			
DP との 関連性	3. 医療従事者としての倫理観に基づき、生命と個人の尊厳を擁護できる。 4. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている。 8. 看護に対する探究心をもち、自ら学ぶ姿勢を持ち続けることができる。			
回数	学習内容	授業方法		
1	看護技術の基盤となるもの・安全の定義・医療安全を学ぶ意義 感染予防を学ぶ意義・手洗いの種類・目的・衛生的手洗い	講義		
2	医療安全の歴史当校の医療安全の取り組み 安全に関する用語の定義・インシデントレポート 衛生的手洗い演習・当校の実習における感染対策・今からできる感染対策	講義・演習		
3	看護業務の特性・人間の特性とヒューマンエラー・SBAR インシデント・アクシデント発生時の速やかな報告	講義・演習		
4	リスクセンス向上のための KYT・先輩の事例をもちいたトレーニング SHELL モデル	グループワーク		
5	安全と人権 身体拘束について・安全確保対策	講義		
6	感染症を成立させる要素と成立過程・感染症を予防するための基礎的知識	講義		
7	感染症の主な分類・法律・組織として取り組む感染対策 感染防止における看護師の役割	講義		
8	スタンダードプリコーション(手袋の着脱・ガウンテクニック・エプロン・ゴーグル・シールド)感染性廃棄物の取り扱い	講義・シミュレーション		
9	感染防護用具の選択と着脱の実際	講義・シミュレーション		
10	滅菌・消毒の違い・滅菌方法・消毒方法の理解・消毒薬の選択・希釈方法 無菌操作とは	講義		
11	根拠を踏まえた滅菌物の取り扱いの実際 使用した器具の感染防止の取り扱い	講義・演習		
12	清潔レベルを意識した滅菌野の作成・無菌操作のデモンストレーション	講義・演習		
13	無菌操作の練習	グループワーク		
14	無菌操作の練習			
15	無菌操作の実際	シミュレーション		
評価方法	筆記試験 安全 40%・感染予防 60%を総合して評価する			
教科書	基礎看護学Ⅰ 医学書院 基礎看護技術Ⅱ 医学書院			
実務経験	本科目は看護師として実務経験のある教員による授業である			



専門分野

科目名	生活援助技術Ⅰ 環境・衣・清潔	開講時期	単位数	時間数
		1 年次前期	1	30
担当教員	専任教員			
科目目標	1. 環境・衣・清潔の意義を理解し、看護実践の基礎となる援助の考え方と技術を習得する。			
DP との関連性	1. 豊かな感性を身につけ、人の可能性を信じ、自己も他者も大切にできる。 3. 医療従事者としての倫理観に基づき、生命と個人の尊厳を擁護できる。 4. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている。 5. その人らしい生活を支えるために、対象の持てる力を活かした援助を考える力が身についている。 8. 看護に対する探究心をもち、自ら学ぶ姿勢を持ち続けることができる。			
回数	学習内容	授業方法		
1	環境の意義と看護師の役割	講義		
2	病室と病床の環境調整、ベッドメイキングの方法	講義		
3	ベッドメイキングの実際	演習		
4	臥床患者の環境整備・シーツ交換の方法と実際	講義		
5	看護師二人で行う、臥床患者のシーツ交換	シミュレーション		
6	看護師二人で行う、臥床患者のシーツ交換	シミュレーション		
7	清潔の意義と援助の考え方・援助方法(入浴、部分浴)	講義		
8	部分浴:手浴・足浴の実際	演習		
9	整容、衣服の意義と条件・援助の方法、寝衣交換	講義・演習		
10	清拭の方法と実際(清潔の意義と援助方法)	講義		
11	全身清拭の方法、寝衣交換の実際	シミュレーション		
12	全身清拭の方法、寝衣交換の実際	シミュレーション		
13	洗髪器もしくは洗髪車を用いての洗髪	講義・演習		
14	洗髪器もしくは洗髪車を用いての洗髪	演習		
15	部分浴(陰部洗浄)	講義・演習		
評価方法	筆記試験 100 点			
教科書	基礎看護技術Ⅱ 医学書院 スタディガイドブック 照林社			
実務経験	本科目は看護師として実務経験のある教員による授業である			

専門分野

科目名	生活援助技術Ⅱ 食事・排泄	開講時期	単位数	時間数
		1 年次後期	1	30
担当教員	専任教員			
科目目標	1. 人間にとっての食事の意義と現代の食生活の動向を理解する 2. 栄養・代謝のアセスメントとその目的及び食生活と栄養状態の関連性を理解する。 3. 患者の状態に応じた食事援助や技術の実際を学び、食事介助ができる 4. 経管栄養法に必要な知識と援助のポイントを学ぶ 5. 排泄の意義と重要性を理解する 6. 排泄のアセスメントとその目的、排泄に影響を与える因子を理解する 7. 排泄行動障害に伴う基本的援助について理解する 8. 対象に応じた援助方法を根拠に基づいて選択し実施できる 9. 排泄障害の基本的な援助方法と根拠を理解する			
DP との 関連性	3. 医療従事者としての倫理観に基づき、生命と個人の尊厳を擁護できる。 4. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている。 5. その人らしい生活を支えるために、対象の持てる力を活かした援助を考える力が身についている。 8. 看護に対する探究心をもち、自ら学ぶ姿勢を持ち続けることができる。			
回数	学習内容	授業方法		
1	栄養と食事に関する基礎知識とアセスメント	講義		
2	絶食状態にある患者の基本的な看護と援助	講義		
3	食べることを支える看護師の役割・食事介助	講義・演習		
4	非経口的栄養法(経管栄養、経静脈栄養)	講義		
5	非経口的栄養法(デモンストレーション)、口腔ケア	演習		
6	排泄の意義・目的	講義		
7	排泄のメカニズム・排泄に影響する要因	講義		
8	自然な排泄を促す援助、排泄援助(オムツ)	講義・演習		
9	排泄援助(オムツ・ポータブルトイレ)	講義・演習		
10	排泄援助(尿器・便器)	講義・演習		
11	床上排泄援助(便器介助)	シミュレーション グループワーク		
12	床上排泄援助(便器介助)	シミュレーション		
13	床上排泄援助(便器介助)	シミュレーション		
14	自然排尿が困難な患者への援助 導尿・持続導尿中の看護	講義・演習		
15	自然排泄が困難な患者への援助 浣腸・摘便	講義・演習		
評価方法	筆記試験 食事 50%、排泄 50%を総合して評価する			
教科書	基礎看護技術Ⅱ 医学書院 スタディガイドブック 照林社			
実務経験	本科目は看護師・助産師として実務経験のある教員による授業である			

専門分野

科目名	生活援助技術Ⅲ 活動・休息	開講時期	単位数	時間数
		1 年次前期	1	30
担当教員	専任教員			
科目目標	1. 人間の生理的欲求の一つである活動・休息について学ぶ 2. 活動休息についての重要性や援助を行うための基礎知識を学び安全かつ安楽で、患者のみならず看護者の身体への負担を最小限にしながら行う技術を習得することができる 3. 休息や睡眠にかかわる看護者の役割を学ぶ			
DP との 関連性	3. 医療従事者としての倫理観に基づき、生命と個人の尊厳を擁護できる。 4. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている。 5. その人らしい生活を支えるために、対象の持てる力を活かした援助を考える力が身についている。 8. 看護に対する探究心をもち、自ら学ぶ姿勢を持ち続けることができる。			
回数	学習内容	授業方法		
1	活動と休息 ①人間と運動 ②人間と休息 安楽な体位の保持 ①基本的な体位	講義		
2	廃用症候群とそのリスクアセスメント 褥瘡発生のしくみ・好発部位	講義		
3	ボディメカニクスの基本 ポジショニングの基本	講義		
4	運動機能の低下した人の援助 ①体位変換	講義		
5	患者の状態に合わせた体位変換・安楽な体位の保持 安楽の促進・苦痛の緩和のためのケア・精神的安寧を保つためのケア	シミュレーション		
6	患者の状態に合わせた体位変換・安楽な体位の保持 安楽の促進・苦痛の緩和のためのケア・精神的安寧を保つためのケア	シミュレーション		
7	運動機能の低下した人の援助 ① 車椅子での移動の援助 ②座位保持・起立動作の援助③歩行の援助	講義		
8	運動機能の低下した人の援助 ① 車椅子での移動の援助 ②座位保持・起立動作の援助③歩行の援助	講義		
9	ベッドから車椅子への移乗後、移送。	シミュレーション		
10	ベッドから車椅子への移乗後、移送。	シミュレーション		
11	看護師が一人で行う体位変換と車椅子への移乗	実技試験		
12	ストレッチャーでの移動の援助	講義		
13	睡眠・休息の援助	講義		
14	活動・休息のアセスメント ゴードンの活動・運動パターンに基づくアセスメント指針とその目的	講義		
15	活動・休息のアセスメント ゴードンの活動・運動パターンに基づくアセスメント指針とその目的	講義		
評価方法	筆記試験 80% 実技試験 20%を総合して評価する			
教科書	基礎看護学技術Ⅱ 医学書院			
実務経験	本科目は看護師として実務経験のある教員による授業である			

専門分野

科目名	臨床看護技術Ⅰ 酸素療法・創傷処置・体温異常(電法)	開講時期	単位数	時間数
		1 年次後期	1	30
担当教員	専任教員、非常勤講師			
科目目標	1. 呼吸の意義を理解し、酸素吸入療法、排痰ケア、吸入の目的と方法を理解する。 2. 酸素療法を必要とする患者をアセスメントする力と、アセスメントに基づいた基本的な看護援助を習得する。 3. 創傷・褥瘡処置を必要とする患者をアセスメントする力とアセスメントに基づいた基本的な看護援助を習得する。 4. 発熱のある患者のアセスメントができ、アセスメントをもとにした基本的な看護援助を習得できる 5. 発熱のある患者の看護を理解できる。 6. 電法の目的と方法を理解し、湯たんぽ・氷枕を作成し、貼用できる			
DP との関連性	3. 医療従事者としての倫理観に基づき、生命と個人の尊厳を擁護できる。 4. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている。 5. その人らしい生活を支えるために、対象の持てる力を活かした援助を考える力が身についている。 8. 看護に対する探究心をもち、自ら学ぶ姿勢を持ち続けることができる。			
回数	学習内容	授業方法		
1	呼吸の意義、呼吸を楽にする姿勢・呼吸法	講義		
2	排痰ケア、一時的吸引、吸入法、一時的吸引の基礎知識	講義		
3	吸入法・一時的吸引の実際	演習		
4	酸素吸入療法(援助の基礎知識)	講義		
5	酸素療法を必要とする患者のアセスメントと看護	グループワーク		
6	酸素療法を必要とする患者の看護の実際	演習		
7	発熱のメカニズムと発熱のある患者のアセスメントの視点	講義		
8	熱中症患者のケア、電法の基礎知識	講義		
9	事例を用いての発熱状態のアセスメント	講義 グループワーク		
10	発熱時の看護の実際(電法)	シミュレーション		
11	発熱時の看護の実際(電法)	シミュレーション		
12	創傷・褥瘡予防ケア・ドレーン類挿入部の処置に対する基礎知識	講義		
13	熱傷に対するケアの基礎知識、創傷の処置の方法	講義		
14	包帯法の基礎知識	講義 グループワーク		
15	創傷処置・包帯法の実際	シミュレーション		
評価方法	筆記試験 80%・実技試験 20%の割合を総合して評価する			
教科書	基礎看護技術Ⅱ 医学書院 看護学生スタディガイド 照林社			
実務経験	本科目は看護師として実務経験のある教員による授業である			

専門分野

科目名	臨床看護技術Ⅱ 検査・与薬・採血	開講時期	単位数	時間数
		2年次前期	1	30
担当教員	専任教員			
科目目標	1. 検査・与薬・採血を行うために必要な基礎的知識を理解し、安全および正確に援助できるための技術や検体の取り扱い方法を習得できる			
DPとの関連性	3. 医療従事者としての倫理観に基づき、生命と個人の尊厳を擁護できる。 4. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている。 5. その人らしい生活を支えるために、対象の持てる力を活かした援助を考える力が身についている。 6. 医療チームの一員として多職種との連携・協働ができる。 8. 看護に対する探究心をもち、自ら学ぶ姿勢を維持することができる。			
回数	学習内容	授業方法		
1	薬物療法における看護の役割・看護の質の保証と安全管理(6R)	講義		
2	薬物の種類と投与方法・援助の実際1 (経口与薬・口腔内与薬、吸入、点眼点鼻、経皮的与薬)	講義		
3	経皮・外用薬投与の実際	演習		
4	薬物の種類と投与方法・援助の実際2(直腸内与薬)	講義・演習		
5	注射の基礎知識と実施方法①(皮下・皮内・筋肉注射)	講義		
6	筋肉注射の実際・患者誤認防止策の実施 針刺し事故の防止・事故後の対応	演習		
7	注射の基礎知識と実施方法②(静脈注射、混注の方法)	講義		
8	静脈内注射の実際	シミュレーション		
9	静脈内注射の実際	シミュレーション		
10	点滴静脈内注射の管理・中心静脈カテーテル留置の介助	講義		
11	輸血管理と援助の実際	講義		
12	血液・尿検査、検体の取り扱いについての基礎知識	講義		
13	簡易血糖測定の実際	講義・演習		
14	静脈内採血の実際・検体の取り扱い	シミュレーション		
15	静脈内採血の実際・検体の取り扱い	シミュレーション		
評価方法	筆記試験 80%・実技試験 20%の割合を総合して評価する			
教科書	基礎看護技術Ⅱ 医学書院 看護学生スタディガイド 照林社			
実務経験	本科目は看護師として実務経験のある教員による授業である			

専門分野

科目名	臨床看護技術Ⅲ 保健指導技術	開講時期	単位数	時間数
		2 年次後期	1	15
担当教員	専任教員			
科目目標	1. 現代の健康教育の動向を理解し、看護における保健指導(学習支援)の意義を理解する。 2. 効果的保健指導(学習支援)に必要な理論と技能について理解する。 3. 保健指導(学習支援)計画の立案を行い、個別性に合わせた実践のための基礎を学ぶ。			
DP との 関連性	1. 豊かな感性を身につけ、人の可能性を信じ、自己も他者も大切にできる。 2. 自己を客観的に見つめ内省することができる。 3. 医療従事者としての倫理観に基づき、生命と個人の尊厳を擁護できる。 4. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている。 5. その人らしい生活を支えるために、対象の持てる力を活かした援助を考える力が身についている。 6. 医療チームの一員として多職種との連携・協働ができる。 8. 看護に対する探究心をもち、自ら学ぶ姿勢を持ち続けることができる。			
回数	学習内容	授業方法		
1	看護における保健指導(学習支援)の意義 教育・指導の概念・看護師の権限・健康教育の変遷・ヘルスプロモーション 保健指導(学習支援)の対象と場	講義		
2	学習支援に必要な理論・モデル ロジャーズ学習理論・健康信念モデル・自己効力・エンパワメントモデル	講義		
3	学習支援において看護師の人間観・看護観・教育観がもたらす影響 効果的学習支援のためのコミュニケーション・カウンセリング・媒体の活用・効果について 保健指導(学習支援)計画の立案プロセスの理解	講義		
4	事例を用いた保健指導(学習支援)計画立案の実際	グループワーク		
5	保健指導計画に基づいた情報収集・プラン修正・シミュレーション	講義		
6	保健指導計画の展開・評価	シミュレーション		
7	保健指導計画の展開・評価	シミュレーション		
8	筆記試験(45分)			
評価方法	筆記試験 100点			
教科書	成人看護学概論 医学書院 基礎看護学Ⅰ 医学書院			
実務経験	本科目は看護師として実務経験のある教員による授業である			

専門分野

科目名	地域・在宅看護概論	開講時期	単位数	時間数
		1 年次前期	1	15
担当教員	非常勤講師			
科目目標	1. 在宅看護が必要とされる背景と基本理念を理解できる 2. 地域で生活する人々とその家族を理解できる。 3. 個人・家族の多様性(文化・慣習・健康観・価値観・生きる力)と家族看護の視点の必要性を理解できる。			
DP との 関連性	1. 豊かな感性を身につけ、人の可能性を信じ、自己も他者も大切にできる。 3. 医療従事者としての倫理観に基づき、生命と個人の尊厳を擁護できる。 4. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている。 5. その人らしい生活を支えるために、対象の持てる力を活かした援助を考える力が身についている。 6. 医療チームの一員として多職種との連携・協働ができる。 7. 変化する時代や地域社会のニーズに対応できるよう、多様な人々と連携・協働ができる。 8. 看護に対する探究心をもち、自ら学ぶ姿勢を持ち続けることができる。			
回数	学習内容		授業方法	
1	地域・在宅看護が必要とされる背景 基本理念		講義 小テスト	
2	地域の人々の生活の理解 地域・在宅看護の役割		講義 グループワーク 小テスト	
3	地域・在宅看護の対象		講義 グループワーク 小テスト	
4	家族の理解		講義 グループワーク 小テスト	
5	在宅療養者への看護活動① 地域における生活環境を整える看護 地域の人々の健康を支える看護		講義 小テスト	
6	在宅療養者への看護活動② ライフステージに応じた看護		講義 小テスト	
7	在宅療養者への看護活動③ 地域での生活における危機管理 地域での生活における災害対策		講義 小テスト	
8	まとめ			
評価方法	小テストを総合して評価する			
教科書	地域・在宅看護の基盤 医学書院			
実務経験	本科目は保健師として実務経験のある教員による授業である			

専門分野

科目名	地域・在宅看護対象論	開講時期	単位数	時間数
		1 年次後期	1	15
担当教員	専任教員・非常勤講師			
科目目標	1. 地域における様々な生活の場を理解できる。 2. 地域で生活している対象の特徴と基本的な支援を理解できる。 3. 地域の特性や地域で行われている自助・互助・共助・公助が理解できる。			
DP との 関 連 性	3. 医療従事者としての倫理観に基づき、生命と個人の尊厳を擁護できる。 4. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている。 5. その人らしい生活を支えるために、対象の持てる力を活かした援助を考える力が身についている。 6. 医療チームの一員として多職種との連携・協働ができる。 7. 変化する時代や地域社会のニーズに対応できるよう、多様な人々と連携・協働ができる。 8. 看護に対する探究心を持ち、自ら学ぶ姿勢を持ち続けることができる。			
回数	学習内容			授業方法
1	地域における様々な生活の場の特徴 地域密着型介護老人福祉施設 小規模多機能ホーム グループホーム サービス付き高齢者向け住宅 ケアハウス 特別養護老人ホーム 住宅型有料老人ホーム			講義
2	施設見学(9:30~12:30)			施設見学
3	地域密着型介護老人福祉施設 小規模多機能ホーム グループホーム サービス付き高齢者向け住宅 各施設の利用者へインタビュー 各施設で活躍している多職種にインタビュー			
4	施設見学で学んだ内容について学びや気づきのまとめ			グループワーク
5	施設見学で学んだ内容について学びや気づきのまとめ グループ間での共有・発表			グループワーク
6	地域調査 学校・実習先病院周辺地域の特性 地域で行われている自助・互助・共助・公助			グループワーク
7	地域調査について共有・発表			グループワーク
8	まとめ(45分)			講義
評価方法	授業参加態度 20% レポート 80%を総合して評価する			
教科書	地域・在宅看護の基盤 医学書院			
実務経験	本科目は看護師・保健師として実務経験のある教員による授業である			



専門分野

科目名	地域・在宅看護援助論 I	開講時期	単位数	時間数
		2 年次後期	1	15
担当教員	非常勤講師			
科目目標	1. 個人のセルフケア能力および家族のケア能力を高める看護援助を理解できる 2. 訪問看護の実際を根拠法も含めて理解できる 3. 在宅で実際に行われる基本的な医療処置や感染防止対策などの基礎的な技術を習得する			
DP との 関 連 性	1. 豊かな感性を身につけ、人の可能性を信じ、自己も他者も大切にできる。 3. 医療従事者としての倫理観に基づき、生命と個人の尊厳を擁護できる。 4. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている。 5. その人らしい生活を支えるために、対象の持てる力を活かした援助を考える力が身についている。 6. 医療チームの一員として多職種との連携・協働ができる。 7. 変化する時代や地域社会のニーズに対応できるよう、多様な人々と連携・協働ができる。 8. 看護に対する探究心をもち、自ら学ぶ姿勢を持ち続けることができる。			
回数	学習内容			授業方法
1	地域での生活を支える制度と社会資源			講義
2	地域・在宅看護の実践の場 訪問看護ステーション 訪問看護の実際 訪問看護の記録			講義
3	地域・在宅看護における多職種連携			講義
4	医療処置と看護 HOT、NPPV			講義
5	医療処置と看護 HPN、褥瘡管理、			講義
6	医療処置と看護 排泄管理(膀胱留置カテーテル・浣腸・摘便)			講義
7	医療処置と看護 感染管理、薬物管理、ペインコントロール			講義
8	筆記試験			
評価方法	筆記試験 100 点			
教科書	地域・在宅看護の実践 医学書院			
実務経験	本科目は保健師として実務経験のある教員による授業である			

専門分野

科目名	地域・在宅看護援助論Ⅱ	開講時期	単位数	時間数
		2 年次後期	1	15
担当教員	非常勤講師			
科目目標	個人・家族の生活に必要とされる地域のケア資源や地域での生活を支える地域ケアシステムの必要性を理解できる			
DP との関連性	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 豊かな感性を身につけ、人の可能性を信じ、自己も他者も大切にできる。</li> <li>3. 医療従事者としての倫理観に基づき、生命と個人の尊厳を擁護できる。</li> <li>5. その人らしい生活を支えるために、対象の持てる力を活かした援助を考える力が身についている。</li> <li>6. 医療チームの一員として多職種との連携・協働ができる。</li> <li>7. 変化する時代や地域社会のニーズに対応できるよう、多様な人々と連携・協働ができる。</li> <li>8. 看護に対する探究心をもち、自ら学ぶ姿勢を持ち続けることができる。</li> </ol>			
回数	学習内容	授業方法		
1	地域ケアシステムの目的と意義 地域包括ケアシステムの構成要素 4つの助(自助・互助・共助・公助)	講義		
2	地域包括ケアシステムでの看護職の役割、活躍する多様な場	講義		
3	地域包括ケアシステムの実際 ケースマネジメント/ケアマネジメント 地域ケア会議	講義		
4	十勝の地域包括ケアシステムの実際	講義		
5	地域包括ケアシステムにおける多職種・多機関連携	講義		
6	在宅療養者の権利を擁護する制度と社会資源	講義		
7	高齢者施策 高齢者虐待防止法	講義		
8	筆記試験			
評価方法	筆記試験 100 点			
教科書	地域・在宅看護の基盤 医学書院			
実務経験	本科目は保健師として実務経験のある教員による授業である			

専門分野

科目名	地域・在宅看護援助論Ⅲ	開講時期	単位数	時間数
		3年次前期	1	15
担当教員	非常勤講師			
科目目標	1. 状態別に応じた療養者や家族への医療や看護を理解できる 2. 地域資源を活用しながら生活している療養者や家族を理解できる 3. 訪問看護師と行政看護師の支援の違いについて理解できる			
DPとの関連性	1. 豊かな感性を身につけ、人の可能性を信じ、自己も他者も大切にできる。 3. 医療従事者としての倫理観に基づき、生命と個人の尊厳を擁護できる。 4. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている。 5. その人らしい生活を支えるために、対象の持てる力を活かした援助を考える力が身についている。 6. 医療チームの一員として多職種との連携・協働ができる。 7. 変化する時代や地域社会のニーズに対応できるよう、多様な人々と連携・協働ができる。 8. 看護に対する探究心をもち、自ら学ぶ姿勢を持ち続けることができる。			
回数	学習内容			授業方法
1	在宅療養者への状態別支援① 認知症をもつ療養者・家族への支援			講義
2	在宅療養者への状態別支援② ALSをもつ療養者・家族への支援			講義
3	在宅療養者への状態別支援③ 精神疾患をもつ療養者・家族への支援			講義
4	在宅療養者への状態別支援④ 呼吸器疾患をもつ療養者・家族への支援			講義
5	在宅療養者への状態別支援⑤ ターミナル期の療養者・家族への支援			講義
6	難病をもつ療養者・家族への支援の実際			講義
7	訪問看護師と行政看護師の支援の違い			講義
8	筆記試験			
評価方法	試験 100点			
教科書	地域・在宅看護の実際 医学書院			
実務経験	本科目は保健師として実務経験のある教員による授業である			

専門分野

科目名	地域・在宅看護援助論Ⅳ	開講時期	単位数	時間数
		3年次前期	1	15
担当教員	専任教員			
科目目標	1. 事例を用いた看護展開を通して、個人・家族の生活を把握し、健康状態とその関連をアセスメントできる 2. アセスメントしたことから看護実践に向けた方法を考えることができる			
DPとの関連性	1. 豊かな感性を身につけ、人の可能性を信じ、自己も他者も大切にできる。 3. 医療従事者としての倫理観に基づき、生命と個人の尊厳を擁護できる。 4. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている。 5. その人らしい生活を支えるために、対象の持てる力を活かした援助を考える力が身についている。 6. 医療チームの一員として多職種との連携・協働ができる。 7. 変化する時代や地域社会のニーズに対応できるよう、多様な人々と連携・協働ができる。 8. 看護に対する探究心をもち、自ら学ぶ姿勢を持ち続けることができる。			
回数	学習内容			授業方法
1	地域・在宅看護過程展開の基本			講義
2	地域・在宅看護過程の展開方法			講義
3	事例を用いたグループワーク・演習①			グループワーク 演習
4	事例を用いたグループワーク・演習②			グループワーク 演習
5	事例を用いたグループワーク・演習③			グループワーク 演習
6	事例を用いたグループワーク・演習④			グループワーク 演習
7	グループ発表・共有 (入浴・シャワー浴の介助演習も含む)			グループワーク 演習
8	筆記試験			
評価方法	演習の参加態度 20% 筆記試験 80%を総合して評価する			
教科書	地域・在宅看護の実践 医学書院			
実務経験	本科目は看護師として実務経験のある教員による授業である			

専門分野

科目名	成人看護学概論	開講時期	単位数	時間数
		1 年次後期	1	15
担当教員	専任教員			
科目目標	1. 成人看護学の対象である大人について成人期の特性が理解できる 2. 成人期にある人が心身ともに成長・成熟し、社会において、大人になっていく過程について生涯発達の視点から理解できる 3. 成人の健康問題の特徴について理解する 4. セクシュアリティの特徴について生物学的・心理・社会的側面から理解する 5. 成人の生活を通して働くこと、生活を営むことが人生を歩んでいる生活者として理解できる			
DP との関連性	3. 医療従事者としての倫理観に基づき、生命と個人の尊厳を擁護できる。 4. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている。 5. その人らしい生活を支えるために、対象の持てる力を活かした援助を考える力が身についている。 7. 変化する時代や地域社会のニーズに対応できるよう、多様な人々と連携・協働ができる。 8. 看護に対する探究心をもち、自ら学ぶ姿勢を持ち続けることができる。			
回数	学習内容		授業方法	
1	生涯発達の特徴 各発達段階の特徴		講義	
2	青年期・壮年期・中年期・向老期の特徴		グループワーク	
3	成人期の生活・仕事・家族		講義	
4	健康バランスの構成要因 健康バランスに影響を及ぼす要因 生活行動がもたらす健康問題とその予防		講義	
5	生活行動がもたらす健康問題とその予防		グループワーク	
6	生活行動がもたらす健康問題とその予防 グループワーク発表		グループワーク	
7	生活行動がもたらす健康問題とその予防のまとめ		講義	
8	筆記試験(45分)			
評価方法	筆記試験 100点			
教科書	成人看護学総論 医学書院			
実務経験	本科目は看護師として実務経験のある教員による授業である			

専門分野

科目名	成人保健	開講時期	単位数	時間数
		1 年次後期	1	30
担当教員	専任教員			
科目目標	成人各期における保健問題を捉え、健康の保持・増進・疾病予防のために保健活動と看護の役割を理解する。			
DP との関連性	<p>3. 医療従事者としての倫理観に基づき、生命と個人の尊厳を擁護できる。</p> <p>4. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている。</p> <p>5. その人らしい生活を支えるために、対象の持てる力を活かした援助を考える力が身についている。</p> <p>7. 変化する時代や地域社会のニーズに対応できるよう、多様な人々と連携・協働ができる。</p> <p>8. 看護に対する探究心をもち、自ら学ぶ姿勢を持ち続けることができる。</p>			
回数	学習内容			授業方法
1	大人の生活からとらえる健康 わが国の特徴～少子高齢化、家族、婚姻、経済、死亡動向			講義
2	生活習慣病の予防と対策、セルフケア 自殺・職業性疾病・作業関連疾患の予防と対応、心の病			講義
3	生活と健康をまもりはぐくむシステム 自殺対策基本法、自殺総合対策大綱、健康増進法、がん対策基本法特定健康診査、特定保健指導等の流れ			講義
4	医療にかかわる対策～がん、自殺、高齢者、DV、STD、CKD、障害者			講義
5	ヘルスプロモーションと看護 ヘルスプロモーションを促進する看護の場と活動			講義
6	成人学習理論			講義
7	生活のなかで健康行動を生み、はぐくむ援助 大人の健康行動のとらえ方、行動変容を促進する看護アプローチ			講義
8	症状別看護、疾患別・治療別看護			講義
9	健康レベル・経過別看護、意志決定支援			講義
10	ストレスとその対処、治療・療養行動に伴うストレス			講義
11	コーピング強化のための援助			講義
12	慢性病患者の理解 慢性病との共存を支える看護、セルフケア			講義
13	セルフケアと成人期の特徴と看護、セルフマネジメント 病みの軌跡理論の理解			講義
14	障害がある人とリハビリテーション 障害がある人とその生活を支援する看護 ボディイメージの変化に対する看護技術、障害受容のプロセス			講義
15	退院支援、多職種連携の必要性			講義
評価方法	筆記試験			
教科書	成人看護学総論 医学書院 国民衛生の動向			
実務経験	本科目は保健師として実務経験のある教員による授業である			

専門分野

科目名	成人看護援助論 I	開講時期	単位数	時間数
		2 年次前期	1	30
担当教員	専任教員・非常勤講師			
科目目標	1. 手術療法を受ける対象と必要な看護が理解できる。 2. 人生の最期の時にある人の健康生活を理解するために、人にとっての死、全人的痛み、死とともに生きることについて理解できる。 3. 緩和ケアの歴史および現状、各種ケアについて理解できる。 4. 終末期に関わる患者と支える家族に対するケアの必要性和援助の方法について理解できる。			
DP との関連性	3. 医療従事者としての倫理観に基づき、生命と個人の尊厳を擁護できる。 4. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている。 5. その人らしい生活を支えるために、対象の持てる力を活かした援助を考える力が身についている。 6. 医療チームの一員として多職種との連携・協働ができる。 8. 看護に対する探究心をもち、自ら学ぶ姿勢を持ち続けることができる。			
回数	学習内容	授業方法		
1	周手術期看護の目的と役割 手術療法と生体反応、手術前の具体的援助	講義		
2	手術後の回復を促進するための看護(ドレーン管理を含む) 術後合併症の発症機序 起こりやすい術後合併症の予防と発症時の対応、ドレーン管理 自己管理に向けた援助、在宅療養者への支援	講義		
3	腹腔鏡手術を受ける患者の看護(胆石症の内容も含む)	講義		
4	乳房の手術を受ける患者の看護	講義		
5	手術療法を受ける術中の看護、看護の目的	講義		
6	手術中の看護の要点、手術室における看護の展開	講義		
7	手術室の環境管理	講義		
8	終末期医療の歴史と現状 3つの概念、死の概念、全人的苦痛、死後の変化、エンゼルケア、葬送儀礼	講義		
9	緩和の歴史、チーム医療 全人的苦痛へのアプローチ:身体的ケア	講義		
10	全人的苦痛へのアプローチ:精神的ケア、社会的ケア、スピリチュアルケア	講義		
11	がん看護、終末期の治療選択	講義		
12	家族ケア、家族の発達課題	講義		
13	グリーフケア	講義		
14	死生観	講義		
15	筆記試験(45分) 2回			
評価方法	筆記試験 周手術期 50% 終末期 50%を総合して評価する			
教科書	臨床外科総論 医学書院 臨床外科各論 医学書院 緩和ケア 医学書院			
実務経験	本科目は保健師・看護師として実務経験のある教員による授業である			

専門分野

科目名	成人看護援助論Ⅱ	開講時期	単位数	時間数
		2 年次前期	2	45
担当教員	専任教員・非常勤講師			
科目目標	1. 呼吸器・循環器疾患を持つ対象の特徴と起こりやすい問題を理解できる。 2. 呼吸器・循環器疾患を持つ対象の看護の目的・役割と経過に応じた基本的看護を理解できる。 3. 呼吸器・循環器疾患をもつ対象の特徴・問題を踏まえ、看護過程を展開できる。 4. 呼吸器・循環器疾患の代表的な検査治療を受ける対象の看護が理解できる。 5. 代表的な呼吸器・循環器疾患の病態生理を踏まえ、各疾患をもつ対象の看護が理解できる。			
DP との 関連性	3. 医療従事者としての倫理観に基づき、生命と個人の尊厳を擁護できる。 4. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている。 5. その人らしい生活を支えるために、対象の持てる力を活かした援助を考える力が身についている。 6. 医療チームの一員として多職種との連携・協働ができる。 8. 看護に対する探究心をもち、自ら学ぶ姿勢を持ち続けることができる。			
回数	学習内容			授業方法
1	医療の動向と看護、呼吸器疾患患者の特徴、起こりやすい問題 看護の目的・役割、経過別看護			講義
2	呼吸器系のフィジカルアセスメント、呼吸器に障害をもつ対象のアセスメントの視点			講義・演習
3	呼吸器系の症状に対する看護(咳嗽・呼吸困難・喀痰・喀血・胸水)			講義
4	呼吸器に障害をもつ対象の事例を用いた看護過程の展開①			講義 グループワーク
5	呼吸器に障害をもつ対象の事例を用いた看護過程の展開②			講義 グループワーク
6	呼吸器に障害をもつ対象の事例を用いた看護過程の展開③			講義 グループワーク
7	呼吸器の検査を受ける患者の看護 動脈血液ガス分析の検査、気管支鏡検査			講義
8	呼吸器の治療を受ける患者の看護 胸腔穿刺、胸腔ドレナージ、人工呼吸器			講義
9	疾患を持つ患者の看護 炎症性疾患(肺炎・気管支炎・胸膜炎)、肺結核患者の看護			講義
10	疾患を持つ患者の看護 気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患<COPD>			講義
11	疾患を持つ患者の看護 気胸、肺がん			講義
12	医療の動向と看護、循環器疾患患者の特徴、起こりやすい問題 看護の目的・役割、経過別看護			講義
13	循環器系のフィジカルアセスメント、循環器に障害をもつ対象のアセスメントの視点			講義・演習
14	循環器系の症状に対する看護(胸痛・動悸・不整脈・チアノーゼ・ショック)			講義
15	循環器に障害をもつ対象の事例を用いた看護過程の展開①			講義 グループワーク



16	循環器に障害をもつ対象の事例を用いた看護過程の展開②	講義 グループワーク
17	循環器に障害をもつ対象の事例を用いた看護過程の展開③	講義 グループワーク
18	循環器の検査を受ける患者の看護 心臓カテーテル検査、心電図検査、血行動態モニタリング、ABI・CVP、心エコー 循環器の治療を受ける患者の看護 心臓カテーテル治療	講義
19	疾患をもつ患者の看護 虚血性心疾患患者の看護	講義
20	疾患をもつ患者の看護 心不全	講義
21	疾患をもつ患者の看護 不整脈	講義
22	疾患をもつ患者の看護 弁膜症、動脈系疾患	講義
23	筆記試験	
評価方法	呼吸器 50% 循環器 50%の試験を総合して評価する	
教科書	呼吸器 医学書院 循環器 医学書院	
実務経験	本科目は看護師として実務経験のある教員による授業である	

専門分野

科目名	成人看護援助論Ⅲ	開講時期	単位数	時間数
		2 年次前期	2	45
担当教員	専任教員・非常勤講師			
科目目標	1. 消化器・腎・泌尿器・内分泌代謝疾患を持つ対象の特徴と起こりやすい問題を理解できる。 2. 消化器・腎・泌尿器・内分泌代謝疾患を持つ対象の看護の目的・役割と経過に応じた基本的看護を理解できる。 3. 消化器疾患をもつ対象の特徴・問題を踏まえ、看護過程を展開できる。 4. 代表的な消化器・腎・泌尿器・内分泌代謝疾患の病態生理を踏まえ、各疾患をもつ対象の看護が理解できる。			
DP との 関 連 性	3. 医療従事者としての倫理観に基づき、生命と個人の尊厳を擁護できる。 4. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている。 5. その人らしい生活を支えるために、対象の持てる力を活かした援助を考える力が身についている。 6. 医療チームの一員として多職種との連携・協働ができる。 8. 看護に対する探究心をもち、自ら学ぶ姿勢を持ち続けることができる。			
回数	学習内容	授業方法		
1	医療の動向と看護、消化器疾患患者の特徴 起こりやすい問題、看護の目的・役割、経過別看護	講義		
2	消化器系のフィジカルアセスメント、消化器に障害をもつ対象のアセスメントの視点 消化器系の症状に対する看護(悪心・嘔吐・下痢・便秘)	講義・演習		
3	消化器に障害をもつ対象の事例を用いた看護過程の展開①	講義 グループワーク		
4	消化器に障害をもつ対象の事例を用いた看護過程の展開②	講義 グループワーク		
5	消化器に障害をもつ対象の事例を用いた看護過程の展開③	講義 グループワーク		
6	消化器の検査を受ける患者の看護 造影検査、内視鏡検査、肝生検、腹部超音波	講義		
7	消化器の治療を受ける患者の看護 インターフェロン療法、食道静脈瘤内視鏡、肝動脈塞栓術 手術療法、胆道・胆嚢ドレナージ(閉塞性黄疸の内容含む)	講義		
8	疾患を持つ患者の看護 上部消化管腫瘍(食道癌・胃癌)、潰瘍性疾患(胃・十二指腸潰瘍) 消化器系の症状に対する看護(吐血・下血)	講義		
9	疾患を持つ患者の看護 膵疾患(膵炎、膵臓がん)、肝疾患(肝炎、肝硬変、肝がん)	講義		
10	消化器の治療を受ける患者の看護 胃婁・腸瘻増設	講義		
11	消化器の治療を受ける患者の看護 下部消化管腫瘍(大腸がん・結腸がん)、ストーマ増設患者の看護	講義		
12	腎疾患患者の特徴、起こりやすい問題、看護の目的・役割	講義		

13	腎疾患の治療を受ける患者の看護 急性期血液濾過透析、血液透析、腹膜透析、腎移植	講義
14	疾患を持つ患者の看護 急性腎不全、慢性腎不全、慢性腎臓病、ネフローゼ症候群	講義
15	泌尿器疾患患者の特徴、起こりやすい問題、看護の目的・役割 泌尿器系の症状に対する看護(乏尿・無尿・頻尿・多尿・頻尿・残尿・尿閉) 泌尿器の検査を受ける患者の看護 尿流動体検査、残尿測定、膀胱鏡	講義
16	泌尿器の治療を受ける患者の看護 カテーテル留置、ホルモン療法	講義
17	泌尿器の治療を受ける患者の看護 膀胱切除術、前立腺切除術	講義
18	内分泌代謝疾患患者の特徴、起こりやすい問題、看護の目的・役割、経過別看護	講義
19	内分泌代謝の検査を受ける患者の看護 糖負荷試験、血糖自己測定	講義
20	内分泌代謝の治療を受ける患者の看護 インスリン補充療法、糖尿病経口薬、食事・運動療法 内分泌代謝の疾患をもつ患者の看護 糖尿病(1型・2型)	講義
21	内分泌代謝の疾患をもつ患者の看護 甲状腺疾患(甲状腺機能亢進症、甲状腺機能低下症)	講義
22	内分泌代謝の疾患をもつ患者の看護 高尿酸血症、脂質異常症	講義
23	筆記試験	
評価方法	消化器 50% 腎・泌尿器 30% 内分泌代謝 20%の試験を総合して評価する	
教科書	消化器 医学書院 腎・泌尿器 医学書院 内分泌・代謝 医学書院	
実務経験	本科目は看護師として実務経験のある教員による授業である	

専門分野

科目名	成人看護援助論Ⅳ	開講時期	単位数	時間数
		2年次前期	1	30
担当教員	専任教員・非常勤講師			
科目目標	1. 運動器・脳神経疾患を持つ対象の特徴と起こりやすい問題を理解できる。 2. 運動器・脳神経疾患を持つ対象の看護の目的・役割と経過に応じた基本的看護を理解できる。 3. 運動器疾患をもつ対象の特徴・問題を踏まえ、看護過程を展開できる。 4. 運動器・脳神経疾患の代表的な検査治療を受ける対象の看護が理解できる。 5. 代表的な運動器・脳神経疾患の病態生理を踏まえ、各疾患をもつ対象の看護が理解できる。			
DPとの関連性	3. 医療従事者としての倫理観に基づき、生命と個人の尊厳を擁護できる。 4. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている。 5. その人らしい生活を支えるために、対象の持てる力を活かした援助を考える力が身についている。 6. 医療チームの一員として多職種との連携・協働ができる。 8. 看護に対する探究心をもち、自ら学ぶ姿勢を持ち続けることができる。			
回数	学習内容	授業方法		
1	医療の動向と看護、運動器疾患患者の特徴 起こりやすい問題	講義		
2	看護の目的・役割、経過別看護	講義		
3	運動器系のフィジカルアセスメント 運動器に障害をもつ対象のアセスメントの視点 運動器に障害をもつ対象の事例を用いた看護過程の展開①	講義 グループワーク		
4	運動器に障害をもつ対象の事例を用いた看護過程の展開②	講義 グループワーク		
5	運動器に障害をもつ対象の事例を用いた看護過程の展開③	講義 グループワーク		
6	運動器の検査を受ける患者の看護（検査時の介助方法含む） 脊髄造影検査、椎間板造影検査、膝関節鏡検査、筋生検	講義		
7	運動器の治療を受ける患者の看護 ギプス固定、牽引法、人工関節置換術	講義		
8	疾患を持つ患者の看護 骨粗鬆症患者、大腿骨頸部骨折・大腿骨転子部骨折、脊椎圧迫骨折	講義		
9	疾患を持つ患者の看護 変形性関節症、腰痛症（椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症）	講義		
10	疾患を持つ患者の看護 関節リウマチ、四肢切断後、脊髄損傷	講義		
11	脳神経疾患患者の特徴、起こりやすい問題、看護の目的・役割、経過別看護 脳神経系のフィジカルアセスメント	講義		
12	脳神経の検査を受ける患者の看護 脳血管造影 脳神経の治療を受ける患者の看護 開頭術・穿頭術、脳室ドレナージ術、低体温療法	講義		
13	脳神経疾患をもつ患者の看護	講義		

	くも膜下出血・脳梗塞、脳腫瘍、頭部外傷	
14	脳神経疾患をもつ患者の看護 重症筋無力症、ギラン・バレー症候群	講義
15	脳神経疾患をもつ患者の看護 筋萎縮性側索硬化症<ALS>、パーキンソン病	講義
評価方法	筆記試験 運動器 60% 脳神経 40%の試験を総合して評価する	
教科書	運動器 医学書院 脳・神経 医学書院	
実務経験	本科目は看護師として実務経験のある教員による授業である	

専門分野

科目名	老年看護学概論	開講時期	単位数	時間数
		1 年次前期	1	15
担当教員	専任教員			
科目目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 老年期の身体・心理・社会的な発達を理解し、老化に伴う心身機能の変化と生涯発達し続ける存在として高齢者のもつ力を洞察する視点を理解する。</li> <li>2. 老年期にある方が生きている社会を理解し、生活者として継続した視点を持ち、看護実践を行う必要性を理解できる。</li> <li>3. 現在を生きる高齢者との世代間交流を通し、個別性と多様性を理解し、老年看護観を述べることができる。</li> </ol>			
DP との 関連性	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 豊かな感性を身につけ、人の可能性を信じ、自己も他者も大切にできる。</li> <li>2. 自己を客観的に見つめ内省することができる。</li> <li>3. 医療従事者としての倫理観に基づき、生命と個人の尊厳を擁護できる。</li> <li>5. その人らしい生活を支えるために、対象の持てる力を活かした援助を考える力が身についている。</li> <li>7. 変化する時代や地域社会のニーズに対応できるよう、多様な人々と連携・協働ができる。</li> <li>8. 看護に対する探究心を持ち、自ら学ぶ姿勢を持ち続けることができる。</li> </ol>			
回数	学習内容		授業方法	
1	老年看護学を学ぶ意義 老年看護の成り立ち 現在の高齢者を取り囲む社会の統計的理解		講義	
2	高齢者の生活環境の理解 老年期の生涯発達理論		講義	
3	老年看護の役割 老年看護実践の特徴 老年看護の理論		講義	
4	高齢者の発達と加齢変化		講義	
5	世代間交流		実践	
6	世代間交流		実践	
7	世代間交流を通して学びの共有		グループワーク	
8	筆記試験(45分)			
評価方法	筆記試験 100点			
教科書	老年看護学 医学書院			
実務経験	本科目は看護師として実務経験のある教員による授業である			

専門分野

科目名	老年保健	開講時期	単位数	時間数
		3 年次後期	1	15
担当教員	非常勤講師			
科目目標	1. 我が国の高齢社会の特徴と保健・医療・福祉対策の動向と現状を理解する。 2. 高齢者の生活を支える地域包括システムを理解できる。			
DP との 関 連 性	3. 医療従事者としての倫理観に基づき、生命と個人の尊厳を擁護できる。 6. 医療チームの一員として多職種との連携・協働ができる。 7. 変化する時代や地域社会のニーズに対応できるよう、多様な人々と連携・協働ができる。 8. 看護に対する探究心をもち、自ら学ぶ姿勢を持ち続けることができる。			
回数	学習内容		授業方法	
1	我が国の高齢社会の特徴と課題		講義	
2	高齢者の生活を支える法・制度の概要		講義	
3	高齢者差別・高齢者虐待 高齢者の人権と共生社会 成年後見制度と地域福祉支援事業		講義	
4	生涯教育と高齢者の学習課題・健康教育		講義	
5	高齢者のための法制度の変遷		講義	
6	介護保険制度の目的と理念 介護保険制度によるサービスと保健医療・福祉サービス		講義	
7	地域包括システムの中での老年看護の役割		講義	
8	筆記試験(45分)			
評価方法	筆記試験 100点			
教科書	老年看護学 医学書院			
実務経験	本科目は保健師として実務経験のある教員による授業である			

専門分野

科目名	老年看護援助論 I	開講時期	単位数	時間数
		2 年次前期	1	15
担当教員	専任教員			
科目目標	1. 老年看護の基本となる高齢者の生活機能の視点から看護過程の展開のためのアセスメントの視点を学ぶ。			
DP との関連性	3. 医療従事者としての倫理観に基づき、生命と個人の尊厳を擁護できる。 4. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている。 5. その人らしい生活を支えるために、対象の持てる力を活かした援助を考える力が身についている。 7. 変化する時代や地域社会のニーズに対応できるよう、多様な人々と連携・協働ができる。 8. 看護に対する探究心をもち、自ら学ぶ姿勢を持ち続けることができる。			
回数	学習内容	授業方法		
1	高齢者の看護過程展開のための視点 生活機能・ICF モデル・高齢者総合機能評価 ゴードンの枠組みに沿った老年期のアセスメント ①栄養・代謝 ②排泄	講義		
2	③活動運動 ④睡眠・休息 ⑤認知・知覚	講義		
3	⑥役割・関係 ⑦健康・知覚・健康管理	講義		
4	⑧ストレス・コーピング ⑨価値・信念 ⑩自己知覚・性・生殖	講義		
5	高齢者のアセスメントの視点のまとめ	グループワーク		
6	高齢者体験・学びの発表	シミュレーション		
7	高齢者のアセスメントの視点について発表	グループワーク		
8	筆記試験(45分)			
評価方法	筆記試験 100点			
教科書	老年看護学 医学書院			
実務経験	本科目は看護師として実務経験のある教員による授業である			



専門分野

科目名	老年看護援助論Ⅱ	開講時期	単位数	時間数
		2年次後期	1	30
担当教員	専任教員・非常勤講師(認知症認定看護師)			
科目目標	1. 高齢者の生活の質に影響を与える主要な症状のメカニズムと高齢者に起こりやすい疾患を理解し、生活への影響並びに家族も含めた看護を学ぶ。 2. 認知症高齢者の看護に必要な知識を学び、その人のもつ力に目を向けた看護を考えることができる。			
DPとの関連性	1. 豊かな感性を身につけ、人の可能性を信じ、自己も他者も大切にできる。 2. 自己を客観的に見つめ内省することができる。 3. 医療従事者としての倫理観に基づき、生命と個人の尊厳を擁護できる。 4. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている。 5. その人らしい生活を支えるために、対象の持てる力を活かした援助を考える力が身についている。 8. 看護に対する探究心をもち、自ら学ぶ姿勢を持ち続けることができる。			
回数	学習内容	授業方法		
1	高齢者の尿・便失禁ケア	講義		
2	高齢者のスキンケア	講義		
3	高齢者に起こりやすい転倒防止のケア	講義		
4	高齢者の生活リズムを整えるケア	講義		
5	高齢者に多い疾患別看護	講義		
6	高齢者に多い疾患・症状・状態別看護の計画立案	事例検討		
7		グループワーク		
8	計画に基づいた看護の実践・リフレクション	シミュレーション・演習		
9				
10	認知症とは せん妄・老人性うつとの鑑別 認知症の動向・中核症状・BPSD	講義		
11	認知症の診断・検査・治療 長谷川式スケール・MMSE等	講義		
12	認知症の種類と特徴	講義		
13	認知症ケアの実際・パーソンセンタードケア	講義		
14				
15	筆記試験 2回			
評価方法	筆記試験 症状・状態別看護 60% 認知症ケア 40%の割合を総合して評価する			
教科書	老年看護学 医学書院			
実務経験	本科目は看護師として実務経験のある教員による授業である			

専門分野

科目名	小児看護学概論	開講時期	単位数	時間数
		1 年次後期	1	30
担当教員	専任教員			
科目目標	1. 小児発達や擁護について学び、小児看護の概念が理解できる。 2. 小児の保健統計を踏まえ、子どもを保護する法律や保健対策が理解できる。			
DP との 関 連 性	3. 医療従事者としての倫理観に基づき、生命と個人の尊厳を擁護できる。 4. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている。 5. その人らしい生活を支えるために、対象の持てる力を活かした援助を考える力が身についている。 7. 変化する時代や地域社会のニーズに対応できるよう、多様な人々と連携・協働ができる。 8. 看護に対する探究心をもち、自ら学ぶ姿勢を持ち続けることができる。			
回数	学習内容	授業方法		
1	小児看護の対象 子どもを取り巻く社会背景	講義・グループワーク		
2	小児と家族の諸統計 小児医療の現状 小児看護の変遷	講義		
3	子どもの権利と権利擁護 児童の権利に関する条約	講義		
4	小児看護における倫理 インフォームドアセント プレパレーション	講義		
5	発達課題 発達理論 エリクソン ポウルビィ	講義		
6	発達課題 発達理論 ピアジェ	講義		
7	小児の成長発達 成長の進み方 成長発達に影響する因子 発達評価	講義		
8	新生児期 形態的特徴 身体生理の特徴	講義		
9	新生児期 原始反射 乳児期 身体生理の特徴	講義		
10	乳児期 身体生理の特徴 感覚機能 運動機能 知的機能 コミュニケーション機能 情緒社会的機能	講義・グループワーク		
11	幼児期 知的機能 コミュニケーション機能	講義・グループワーク		
12	幼児期 情緒・社会的機能	講義・グループワーク		
13	学童期 形態的特徴 感覚運動機能 思春期 形態的特徴 発達課題	講義・グループワーク		
14	小児をめぐる法律 児童福祉法 児童虐待防止法 母子保健法	講義		
15	まとめ 筆記試験(45分)			
評価方法	筆記試験 100点			
教科書	小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院			
実務経験	本科目は看護師として実務経験のある教員による授業である			

専門分野

科目名	小児看護援助論 I	開講時期	単位数	時間数
		2 年次前期	1	15
担当教員	専任教員			
科目目標	<p>1. 子どもの発達段階に応じた日常生活と特徴を踏まえ、健全な成長発達、健康増進に向けた援助のあり方を理解する。</p> <p>2. 現代家族の特徴を踏まえ、家族への援助を理解することができる。</p>			
DP との 関連性	<p>3. 医療従事者としての倫理観に基づき、生命と個人の尊厳を擁護できる。</p> <p>4. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている。</p> <p>5. その人らしい生活を支えるために、対象の持てる力を活かした援助を考える力が身についている。</p> <p>6. 医療チームの一員として多職種との連携・協働ができる。</p> <p>8. 看護に対する探究心を持ち、自ら学ぶ姿勢を持ち続けることができる。</p>			
回数	学習内容	授業方法		
1	新生児の養護 日常生活の世話 事故防止、感染防止	講義		
2	乳児の養護 乳児の栄養 母乳栄養、人工栄養の特徴 授乳の世話 離乳食	講義		
3	乳児の養護 日常生活の世話 事故防止 乳幼児突然死症候群	講義・グループワーク		
4	幼児の養護 日常生活の世話 基本的生活習慣の獲得 排泄・食事	講義・グループワーク		
5	幼児の養護 日常生活の世話 基本的生活習慣の獲得 睡眠・清潔・遊び 幼児期の事故防止 処置の方法	講義・グループワーク		
6	学童期の子どもを取り巻く環境 学童の養護 学校生活への適応 学習と遊び 安全教育 思春期の養護 生活の特徴 心の問題 思春期・青年期の健康問題の特徴と看護	講義		
7	予防接種 学校保健安全法 特別支援教育	講義		
8	筆記試験 (45 分)			
評価方法	筆記試験 100 点			
教科書	小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院			
実務経験	本科目は看護師として実務経験のある教員による授業である			

専門分野

科目名	小児看護援助論Ⅱ	開講時期	単位数	時間数
		2年次前期	1	15
担当教員	非常勤講師			
科目目標	1. 小児期に多い疾病の病態生理、症状、診断、治療について理解できる。			
DPとの関連性	4. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている。 8. 看護に対する探究心を持ち、自ら学ぶ姿勢を持ち続けることができる。			
回数	学習内容	授業方法		
1	染色体異常・体内環境により発症する先天異常 新生児の疾患 代謝性・内分泌性疾患(1型糖尿病・成長ホルモン分泌不全性低身長症)	講義		
2	免疫疾患・アレルギー疾患・リウマチ性疾患(食物アレルギー・気管支喘息・若年性特発性関節炎)	講義		
3	感染症(麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎・髄膜炎・百日咳) 呼吸器疾患(肺炎・クループ)	講義		
4	循環器疾患(心室中隔欠損症・フォロー四徴症・川崎病)	講義		
5	消化器疾患(口蓋裂・肥厚性幽門狭窄症・ヒルシュスプルング病) 血液疾患(血友病・突発性血小板減少症紫斑病)	講義		
6	悪性新生物(急性リンパ性白血病・神経芽腫・ウィルムス腫瘍)	講義		
7	腎・泌尿器疾患及び生殖器疾患(糸球体腎炎・ネフローゼ症候群) 神経疾患(二分脊椎・てんかん・脳性麻痺)	講義		
8	筆記試験(45分)			
評価方法	筆記試験 100点			
教科書	小児臨床看護各論 医学書院			
実務経験	本科目は医師として実務経験のある教員による授業である			

専門分野

科目名	小児看護学援助論Ⅲ	開講時期	単位数	時間数
		2 年次後期	1	30
担当教員	専任教員・非常勤講師			
科目目標	1. 病気や入院が子どもと家族に与える影響と援助が理解できる。 2. さまざまな健康状態・状況にある子どもと家族の看護が理解できる。			
DP との関連性	3. 医療従事者としての倫理観に基づき、生命と個人の尊厳を擁護できる。 4. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている。 5. その人らしい生活を支えるために、対象の持てる力を活かした援助を考える力が身についている。 8. 看護に対する探究心をもち、自ら学ぶ姿勢を持ち続けることができる。			
回数	学習内容	授業方法		
1	病気・障害が家族に与える影響 病気・障害に対する子どもの反応、家族の反応 子どもの健康問題と看護	講義		
2	入院中の子どもと家族の看護 外来における子どもと家族の看護	講義		
3	1 型糖尿病をもつ子どもの看護 内分泌疾患の看護 下垂体疾患をもつ子どもの看護	講義		
4	食物アレルギーの子どもの看護 気管支喘息の子どもの看護 主要症状の看護(呼吸困難) 酸素療法・吸入療法の看護 若年性特発性関節炎の子どもの看護	講義		
5	麻疹の子どもの看護 水痘の子どもの看護 百日咳の子どもの看護 主要症状の看護(発熱・発疹・脱水) 隔離を必要とする子どもと家族の看護	講義		
6	かぜ症候群の子どもの看護 肺炎の子どもの看護 口・鼻腔吸引 点滴内静脈注射の管理 ファロー四徴症の子供の看護 川崎病の子どもの看護	講義		
7	形態異常のある疾患の子どもの看護 消化器疾患の子どもの看護(腸重積・急性胃腸炎) 主要症状の看護(嘔吐・下痢)	講義		
8	貧血のある子どもの看護 出血傾向のある子どもの看護 輸液療法を必要とする子どもの看護 白血病の子どもの看護 骨髄検査を受ける子どもの看護	講義		
9	ネフローゼ・溶連菌感染後急逝糸球体腎炎の看護 主要症状の看護(浮腫) 活動制限・食事制限のある子どもの看護 けいれんのある子どもの看護 意識障害のある子どもの看護 腰椎穿刺を受ける子どもの看護	講義		
10	慢性期にある子どもと家族の看護 在宅療養中の子どもと家族の看護	講義		
11	急性期における子どもと家族の看護 周手術期における子どもと家族の看護	講義		
12	終末期における子どもと家族の看護 障害のある子どもと家族の看護	講義		
13	子どものアセスメント アセスメントに必要な技術 身体的アセスメント	講義・グループワーク		
14	看護過程の展開	講義・グループワーク		
15	筆記試験 2 回			
評価方法	筆記試験 疾患看護 50% 経過別看護・身体的アセスメント・看護過程 50%を総合して評価する			
教科書	小児臨床看護各論 医学書院 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院			
実務経験	本科目は看護師として実務経験のある教員による授業である			

専門分野

科目名	母性看護学概論	開講時期	単位数	時間数
		1 年次後期	1	30
担当教員	専任教員・非常勤講師			
科目目標	1. 母性看護の基盤となる概念を理解し、母性看護の意義と役割を理解する 2. 母性看護の取り巻く社会の変遷と現状を理解する 3. 母性に関連した関係法規を理解する 4. 女性の生涯を通じての性と生殖に関する健康問題を理解する 5. 母性看護における倫理的問題を理解し、看護者としての倫理観を基に女性の尊厳と擁護を考える 6. 新生児の特徴を理解できる			
DP との 関 連 性	1. 豊かな感性を身につけ、人の可能性を信じ、自己も他者も大切にできる。 3. 医療従事者としての倫理観に基づき、生命と個人の尊厳を擁護できる。 4. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている。 5. その人らしい生活を支えるために、対象の持てる力を活かした援助を考える力が身についている。 6. 医療チームの一員として多職種との連携・協働ができる。 8. 看護に対する探究心を持ち、自ら学ぶ姿勢を持ち続けることができる。			
回数	学習内容		授業方法	
1	母性看護の基盤となる概念		講義	
2	母性看護の基盤となる概念		講義	
3	母性看護の対象理解		講義	
4	ライフステージ各期の看護		講義	
5	母性看護における倫理的問題		講義・個人ワーク	
6	リプロダクティブヘルスケア		グループワーク	
7	リプロダクティブヘルスケア		グループワーク	
8	母性看護を取り巻く社会の変遷と母子保健施策・母子保健統計		講義	
9	母性看護を取り巻く社会の変遷と母子保健施策・母子保健統計		講義	
10	母性看護を取り巻く社会の変遷と母子保健施策・関係法規		講義	
11	母性看護を取り巻く社会の変遷と母子保健施策・関係法規		講義	
12	母性看護を取り巻く社会の変遷と母子保健施策・関係法規		講義	
13	母性看護の対象理解(新生児)		講義	
14	母性看護の対象理解(新生児)		講義	
15	まとめ 筆記試験		講義	
評価方法	筆記試験			
教科書	医学書院 母性看護学概論 医学書院 母性看護学各論			
実務経験	本科目は助産師として実務経験のある教員による授業である			

専門分野

科目名	母性看護学援助論 I	開講時期	単位数	時間数
		2 年次前期	1	30
担当教員	非常勤講師			
科目目標	1. 女性のライフステージ各期の特徴と健康問題、女性特有の疾患を理解する 2. 生殖過程として、妊娠・分娩・産褥期の正常経過と異常(健康障害)を理解する			
DP との 関連性	4. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている。 5. その人らしい生活を支えるために、対象の持てる力を活かした援助を考える力が身についている。 8. 看護に対する探究心をもち、自ら学ぶ姿勢を持ち続けることができる。			
回数	学習内容		授業方法 備考	
1	女性生殖器の形態・機能の変化		講義	
2	女性生殖器の形態・機能の変化(月経周期・妊娠の成立)		講義	
3	女性のライフステージ各期の疾患と治療 (思春期・成熟期)		講義	
4	女性のライフステージ各期の疾患と治療 (更年期・老年期)		講義	
5	女性生殖器疾患の症状と検査・治療		講義	
6	女性生殖器疾患の手術・治療		講義	
7	人の生殖について (遺伝相談・不妊治療)		講義	
8	妊娠期の理解(正常妊娠)		講義	
9	妊娠期の理解(異常妊娠)		講義	
10	妊娠期の理解(異常妊娠)		講義	
11	分娩期の理解(正常分娩)		講義	
12	分娩期の理解(胎児心拍モニター・NCPR)		講義	
13	分娩期の理解(異常分娩)		講義	
14	産褥期の理解(正常産褥)		講義	
15	産褥期の理解(異常産褥)		講義	
評価方法	筆記試験 100 点			
教科書	医学書院 母性看護学概論 医学書院 母性看護学各論 医学書院 専門分野Ⅱ 女性生殖器			
実務経験	本科目は産婦人科医師として実務経験のある教員による授業である			

専門分野

科目名	母性看護学援助論Ⅱ	開講時期	単位数	時間数
		2年次後期	1	30
担当教員	非常勤講師			
科目目標	妊娠・分娩・産褥期・新生児期を理解し、親になる過程や家族適応を支える看護実践のための基礎的知識・技術・態度を習得する			
DPとの関連性	<p>3. 医療従事者としての倫理観に基づき、生命と個人の尊厳を擁護できる。</p> <p>4. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている。</p> <p>5. その人らしい生活を支えるために、対象の持てる力を活かした援助を考える力が身についている。</p> <p>8. 看護に対する探究心を持ち、自ら学ぶ姿勢を持ち続けることができる。</p>			
回数	学習内容		授業方法	
1	不妊治療と看護		講義	
2	妊娠期における看護		講義	
3	妊娠期における看護		講義	
4	妊娠期における看護		講義	
5	ハイリスク妊婦の看護		講義	
6	分娩期における看護		講義	
7	分娩期における看護		講義	
8	異常分娩の看護		講義	
9	産褥期の看護		講義	
10	産褥期の看護		講義	
11	産褥の異常と看護、児に健康上の問題があるときの看護、児を亡くした褥婦・家族の看護		講義	
12	施設退院後の看護 育児不安と育児支援、産褥期の精神障害の看護		講義	
13	出生直後の児の看護		講義	
14	新生児の異常と看護		講義	
15	新生児の異常と看護		講義	
評価方法	筆記試験 100点			
教科書	医学書院 母性看護学概論 医学書院 母性看護学各論 医学書院 母性看護技術			
実務経験	本科目は助産師として実務経験のある教員による授業である			



専門分野

科目名	母性看護学援助論Ⅲ	開講時期	単位数	時間数
		3年次前期	1	15
担当教員	専任教員			
科目目標	母性看護の基盤となる概念を理解し、対象のその人らしさや持てる力を活かし、親になる過程や家族適応にむけたウエルネス看護診断に基づく看護過程を習得する			
DPとの関連性	<p>4. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている。</p> <p>5. その人らしい生活を支えるために、対象の持てる力を活かした援助を考える力が身についている。</p> <p>8. 看護に対する探究心をもち、自ら学ぶ姿勢を持ち続けることができる。</p>			
回数	学習内容		授業方法	
1	母性看護過程 母性看護の基盤となる概念の理解		講義・演習	
2	事例を用いた看護計画立案①		協同学習	
3	事例を用いた看護計画立案②		協同学習	
4	事例を用いた看護計画立案③		協同学習	
5	事例を用いた看護計画立案④		協同学習	
6	看護計画発表		グループワーク	
7	看護計画発表		グループワーク	
8	グループ発表まとめ(45分)		講義	
評価方法	グループワーク取り組み状況とレポートを総合して評価する			
教科書	医学書院 母性看護学概論 医学書院 母性看護学各論 医学書院 母性看護技術			
実務経験	本科目は助産師として実務経験のある教員による授業である			

専門分野

科目名	精神看護学概論	開講時期	単位数	時間数
		2 年次前期	1	15
担当教員	専任教員			
科目目標	1.精神看護学の対象について概観を理解する。 2.精神医療保健福祉の現状及び歴史を踏まえ対象を取り囲む社会情勢を理解する。			
DP との 関連性	1. 豊かな感性を身につけ、人の可能性を信じ、自己も他者も大切にできる。 2. 自己を客観的に見つめ内省することができる。 3. 医療従事者としての倫理観に基づき、生命と個人の尊厳を擁護できる。 4. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている。 5. その人らしい生活を支えるために、対象の持てる力を活かした援助を考える力が身についている。 6. 医療チームの一員として多職種との連携・協働ができる。 7. 変化する時代や地域社会のニーズに対応できるよう、多様な人々と連携・協働ができる。 8. 看護に対する探究心をもち、自ら学ぶ姿勢を維持することができる。			
回数	学習内容	授業方法		
1	精神看護学で学ぶこと・トピックス(当事者研究、オープンダイアログ)	講義		
2	精神の健康	講義		
3	精神医療保健福祉の現状	講義		
4	精神医療保健福祉の歴史	講義		
5	心のはたらきと人格の形成 心のはたらき、心のはたらきと人格の発達	講義・グループワーク		
6	関係のなかの人間 システムとしての人間関係、全体としての家族、人間と集団	講義・グループワーク		
7	ケアの人間関係 ケアの前提、ケアの原則、ケアの方法、チームダイナミクス	講義・グループワーク		
8	筆記試験(45分)			
評価方法	筆記試験 100 点			
教科書	精神看護の基礎 医学書院 精神看護の展開 医学書院			
実務経験	本科目は保健師として実務経験のある教員による授業である			

専門分野

科目名	精神看護援助論 I	開講時期	単位数	時間数
		2 年次前期	1	30
担当教員	非常勤講師			
科目目標	1.心の健康、現代社会における心の健康について理解する。 2.ライフサイクルとストレスについて理解する。 3.精神疾患とその症状、治療について理解する。			
DP との 関 連 性	1. 豊かな感性を身につけ、人の可能性を信じ、自己も他者も大切にできる。 2. 自己を客観的に見つめ内省することができる。 4. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている。 5. その人らしい生活を支えるために、対象の持てる力を活かした援助を考える力が身についている。 6. 医療チームの一員として多職種との連携・協働ができる。 7. 変化する時代や地域社会のニーズに対応できるよう、多様な人々と連携・協働ができる。 8. 看護に対する探究心をもち、自ら学ぶ姿勢を持ち続けることができる。			
回数	学習内容	授業方法		
1	精神保健の考え方 心の機能と発達	講義		
2	「心のケア」と日本社会、ストレスとコーピング	講義		
3	家族への看護	講義		
4	安全を守る 自殺、自殺企図、自傷行為とその予防	講義		
5	地域保健活動、学校職場におけるメンタルヘルス	講義		
6	社会のなかの精神障がい、精神障がいと治療の歴史	講義		
7	精神科疾患のあらわれ方、治療① 統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	講義		
8	精神科疾患のあらわれ方、治療② 気分＜感情＞障害	講義		
9	精神科疾患のあらわれ方、治療③ 神経症性障害、ストレス関連障害、身体表現性障害	講義		
10	精神科疾患のあらわれ方、治療④ 生理的障害及び身体要因に関連した行動症候群	講義		
11	精神科疾患のあらわれ方、治療⑤ パーソナリティ障害、小児期・青年期に発症する行動・情緒の障害	講義		
12	精神科疾患のあらわれ方、治療⑥ 習慣及び衝動の障害、知的障害	講義		
13	精神科疾患のあらわれ方、治療⑦ 性同一性障害、精神作用物質使用による精神・行動の障害	講義		
14	精神科疾患のあらわれ方、治療⑧ 症状性を含む気質精神障害	講義		
15	災害時のメンタルヘルス、PFA	講義		
評価方法	筆記試験 こころの健康 50% 疾患理解 50%を総合して評価する			
教科書	精神看護の基礎 医学書院 精神看護の展開 医学書院			
実務経験	本科目は保健師・医師として実務経験のある教員による授業である			

専門分野

科目名	精神看護援助論Ⅱ	開講時期	単位数	時間数
		2年次後期	1	30
担当教員	非常勤講師・専任教員			
科目目標	1.精神に障がいのある対象の看護を考えるために必要な考え方・方法を理解する。 2.事例を用いた看護過程を通して、精神に障がいのある対象の全体を捉える基礎的方法を理解する。			
DPとの関連性	1. 豊かな感性を身につけ、人の可能性を信じ、自己も他者も大切にできる。 2. 自己を客観的に見つめ内省することができる。 3. 医療従事者としての倫理観に基づき、生命と個人の尊厳を擁護できる。 4. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている。 5. その人らしい生活を支えるために、対象の持てる力を活かした援助を考える力が身についている。 6. 医療チームの一員として多職種との連携・協働ができる。 7. 変化する時代や地域社会のニーズに対応できるよう、多様な人々と連携・協働ができる。 8. 看護に対する探究心をもち、自ら学ぶ姿勢を持ち続けることができる。			
回数	学習内容	授業方法		
1	生きる力と強さに着目した援助 レジリエンス・リカバリ・ストレングス	講義		
2	患者の権利擁護<アドボカシー>、暴力予防	講義		
3	セルフケアへの援助 オレム・アンダーウッドモデル	講義		
4	精神の健康とマネジメント 患者と家族の看護、リエゾン看護	講義		
5	援助関係の構築、信頼関係の基礎作り	講義		
6	家族への看護 社会復帰・社会参加への支援	講義		
7	精神科病院での看護の実際	講義		
8	精神看護過程の基本	講義		
9	精神看護過程の展開方法	講義		
10	事例を用いたグループワーク①	グループワーク		
11	事例を用いたグループワーク②	グループワーク		
12	事例を用いたグループワーク③	グループワーク		
13	事例を用いたグループワーク④	グループワーク		
14	グループ発表・共有	グループワーク		
15	筆記試験 2回			
評価方法	精神看護の実際 50% 看護過程 50%を総合して評価する			
教科書	精神看護の基礎 医学書院 精神看護の展開 医学書院			
実務経験	本科目は看護師として実務経験のある教員による授業である			

専門分野

科目名	精神看護援助論Ⅲ	開講時期	単位数	時間数
		3 年次前期	1	30
担当教員	非常勤講師・専任教員			
科目目標	1.精神に障がいのある対象の生活について考えることができる。 2.精神に障がいのある対象の力や、地域での生活を継続するための工夫について知ることができる。 3.精神に障がいのある対象を取り巻く社会資源及びサービスの実際を理解することができる。 4.地域におけるケアと支援の実際と役割を知ることができる。			
DP との関連性	1. 豊かな感性を身につけ、人の可能性を信じ、自己も他者も大切にできる。 2. 自己を客観的に見つめ内省することができる。 3. 医療従事者としての倫理観に基づき、生命と個人の尊厳を擁護できる。 4. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている。 5. その人らしい生活を支えるために、対象の持てる力を活かした援助を考える力が身についている。 6. 医療チームの一員として多職種との連携・協働ができる。 7. 変化する時代や地域社会のニーズに対応できるよう、多様な人々と連携・協働ができる。 8. 看護に対する探究心をもち、自ら学ぶ姿勢を持ち続けることができる。			
回数	学習内容		授業方法	
1	精神看護学で学ぶこと 精神看護の課題		講義	
2	社会のなかの精神障がい① 精神障がいと社会学		講義	
3	社会のなかの精神障がい② 精神障がいと法制度		講義	
4	社会のなかの精神障がい③ おもな精神保健医療福祉対策とその動向		講義	
5	地域におけるケアと支援① 地域における生活支援の方法		講義	
6	地域におけるケアと支援② 地域におけるケアの方法と実際①		講義	
7	地域におけるケアと支援③ 地域におけるケアの方法と実際②当事者の体験談		講義	
8	地域における精神障がい者が利用できる社会資源 障害者総合支援法、精神保健福祉法に基づく社会資源		講義	
9.10	施設見学(9:00-12:00) 就労移行支援、就労継続支援 A 型・B 型		施設見学	
11.12	施設見学(13:00-16:00) 地域活動支援センター、デイケア、グループホーム		施設見学	
13	施設見学で学んだ内容の学びのまとめ		グループワーク	
14.15	グループ発表・共有		グループワーク 講義	
評価方法	レポート サービスの実際 50% 生活支援の実際 50%を総合して評価する			
教科書	精神看護の基礎 医学書院 精神看護の展開 医学書院			
実務経験	本科目は精神保健福祉士・保健師として実務経験のある教員による授業である			

専門分野

科目名	災害看護	開講時期	単位数	時間数
		3年次後期	1	15
担当教員	非常勤講師			
科目目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. チーム医療における看護師としてのメンバーシップ及びリーダーシップの発揮と看護をマネジメントできる基礎的能力を理解する。</li> <li>2. チームの一員における看護師の多職種との連携・協働を理解する。</li> <li>3. 災害医療・災害看護に関する基礎的知識を習得できる。</li> <li>4. 諸外国における保健・医療・福祉の課題について基礎的知識を理解する。</li> </ol>			
DPとの関連性	<ol style="list-style-type: none"> <li>3. 医療従事者としての倫理観に基づき、生命と個人の尊厳を擁護できる。</li> <li>4. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている。</li> <li>6. 医療チームの一員として多職種との連携・協働ができる。</li> <li>7. 変化する時代や地域社会のニーズに対応できるよう、多様な人々と連携・協働ができる。</li> <li>8. 看護に対する探究心をもち、自ら学ぶ姿勢を持ち続けることができる。</li> </ol>			
回数	学習内容		授業方法	
1	災害医療の基礎知識		講義	
2	トリアージの概念		講義	
3	トリアージ机上シュミレーション		講義	
4	トリアージ机上シュミレーション		講義	
5	災害時の看護活動と被災者及び援助者の心理と心のケア		講義	
6	精神障害者に対する災害看護 応急処置		講義	
7	国際災害支援		講義	
8	筆記試験(45分)		講義	
評価方法	筆記試験 100点			
教科書	災害看護 学研			
実務経験	本科目は看護師として実務経験のある教員による授業である			

専門分野

科目名	医療安全 I	開講時期	単位数	時間数
		2 年次後期	1	15
担当教員	非常勤講師			
科目目標	<p>1. 正確なコミュニケーションは医療の安全性を高める要因であることを理解することができる。</p> <p>2. 人間は誰でも間違えるという人間の特性を踏まえ、チームでの情報共有と解決方法(RCA・セーフティII)を理解することができる。</p> <p>3. チーム医療の一員として、「気づきを発信する」重要性を理解できる。</p>			
DP との 関連性	<p>3. 医療従事者としての倫理観に基づき、生命と個人の尊厳を擁護できる。</p> <p>4. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている。</p> <p>6. 医療チームの一員として多職種との連携・協働ができる。</p> <p>7. 変化する時代や地域社会のニーズに対応できるよう、多様な人々と連携・協働ができる。</p> <p>8. 看護に対する探究心を持ち、自ら学ぶ姿勢を持ち続けることができる。</p>			
回数	学習内容		授業方法	
1	医療安全とは 医療事故防止のためのチームコミュニケーション		講義 グループワーク	
2	チームコミュニケーション Team STEPPS とは		講義 グループワーク	
3	Team STEPPS		講義 グループワーク	
4	チームでの情報共有と解決方法・RCA とは、RCA の実際		講義 グループワーク	
5	チームでの情報共有と解決方法・RCA とは、RCA の実際		グループワーク	
6	チームでの情報共有と解決方法・RCA とは、RCA の実際		グループワーク	
7	チームでの情報共有と解決方法・セーフティIIとは、セーフティIIの実際 「気づきを発信する」と医療者の責務について		講義	
8	まとめ 課題レポート			
評価方法	レポート 100 点			
教科書				
実務経験	本科目は看護師として実務経験のある教員による授業である			

専門分野

科目名	医療安全Ⅱ	開講時期	単位数	時間数
		3年次前期	1	15
担当教員	非常勤講師			
科目目標	1. 療養上の生活・診療の補助に伴う、現在の医療事故の現状を理解する。 2. 診療補助技術における事故、防止のための知識・技術を習得できる。			
DPとの関連性	3. 医療従事者としての倫理観に基づき、生命と個人の尊厳を擁護できる。 4. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている。 6. 医療チームの一員として多職種との連携・協働ができる。 7. 変化する時代や地域社会のニーズに対応できるよう、多様な人々と連携・協働ができる。 8. 看護に対する探究心をもち、自ら学ぶ姿勢を持ち続けることができる。			
回数	学習内容	授業方法		
1	医療安全の復習	講義		
2	療養上の世話の事故防止(食事・清潔・排泄)	講義		
3	療養上の世話の事故防止(車いす・移動・入浴)	講義		
4	診療の補助業務に伴う事故防止(薬剤・与薬)	講義		
5	診療の補助業務に伴う事故防止(薬剤・与薬)	講義		
6	診療の補助業務に伴う事故防止(ドレーン・チューブ・輸液ポンプ等)	講義		
7	情報管理の医療事故	講義		
8	筆記試験(45分)			
評価方法	筆記試験 100点			
教科書	看護実践マネジメント/医療安全 メジカルフレンド社			
実務経験	本科目は看護師として実務経験のある教員による授業である			



専門分野

科目名	臨床看護の実践	開講時期	単位数	時間数
		3年次後期	1	30
担当教員	専任教員			
科目目標	1. 複数の患者をアセスメントする力を身につける。 2. 複数の患者を受け持つ際の看護のポイントを学習する 3. 複数の患者を受け持つ際の優先順位を考える。 4. 各看護学、医療安全で学んだ内容を基に、患者に必要なフィジカルアセスメントと日常生活援助を行うことができる。			
DPとの関連性	4. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている。 5. その人らしい生活を支えるために、対象の持てる力を活かした援助を考える力が身についている。 6. 医療チームの一員として多職種との連携・協働ができる。 7. 変化する時代や地域社会のニーズに対応できるよう、多様な人々と連携・協働ができる。 8. 看護に対する探究心をもち、自ら学ぶ姿勢を持ち続けることができる。			
回数	学習内容	授業方法		
1	看護の実践と統合実習について	講義		
2	業務遂行のためのマネジメント・多重課題に伴う危険要因と事故防止	講義		
3	複数患者への対応	講義		
4	複数患者への対応 患者の病態・フィジカルアセスメント	グループワーク		
5	複数患者への対応 患者の病態・フィジカルアセスメント	グループワーク		
6	複数患者への対応 患者の看護	グループワーク		
7	複数患者への対応 患者の看護	グループワーク		
8	複数患者への対応 優先順位	講義		
9	複数患者への対応 優先順位の判断	グループワーク		
10	複数患者への対応 優先順位の実際	グループワーク		
11	療養上の世話の援助の実際 (フィジカルアセスメント・点滴の観察・寝衣交換)	シュミレーション		
12	療養上の世話の援助の実際 (フィジカルアセスメント・点滴の観察・寝衣交換)	シュミレーション		
13	療養上の世話の援助の振り返り	講義		
14	療養上の世話の援助の振り返り	講義		
15	療養上の世話の援助	実技試験		
評価方法	授業参加態度 20% 実技試験 80%を総合して評価する			
教科書	看護実践マネジメント／医療安全 メヂカルフレンド社			
実務経験	本科目は看護師として実務経験のある教員による授業である			

専門分野

科目名	看護管理とマネジメント	開講時期	単位数	時間数
		3年次後期	1	15
担当教員	非常勤講師			
科目目標	1. チーム医療における看護師としてのメンバーシップ及びリーダーシップの発揮と看護をマネジメントできる基礎的能力を理解し、看護管理の基礎的知識を習得できる。 2. チーム医療における看護師の多職種との連携・協働を理解する			
DP との 関連性	3. 医療従事者としての倫理観に基づき、生命と個人の尊厳を擁護できる。 4. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている。 6. 医療チームの一員として多職種との連携・協働ができる。 7. 変化する時代や地域社会のニーズに対応できるよう、多様な人々と連携・協働ができる。 8. 看護に対する探究心を持ち、自ら学ぶ姿勢を持ち続けることができる。			
回数	学習内容	授業方法		
1	地域における看護マネジメント 1) 地域との連携における看護師の役割 2) 暮らしに帰えるためのマネジメントシステム	講義		
2	チーム医療における多職種との連携・協働とは	シュミレーション		
3	チーム医療における多職種との連携・協働とは	シュミレーション		
4	病院が必要とする専門職業人とは マネジメントとは 看護におけるマネジメントとは	講義		
5	看護職自身のマネジメント 1) 健康管理 2) 看護師のキャリア開発・継続教育	講義		
6	医療チームにおける看護マネジメント 1) 看護師のチームワークとコミュニケーション (リーダーシップ・メンバーシップ) 2) 多職種のチームワークとコミュニケーション	講義		
7	看護マネジメントの実際 1) 薬物・物品の管理 2) 情報のマネジメント	講義		
8	マネジメントにおける指標システム ※看護必要度・医療・看護の質と指標 病院機能評価・看護業務基準・看護手順	講義		
評価方法	授業参加態度 20% レポート 80%を総合して評価する			
教科書	看護実践マネジメント／医療安全 メジカルフレンド社			
実務経験	本科目は看護師として実務経験のある教員による授業である			